

2022年度

教育委員会の点検・評価報告書  
(2021年度事業分)

2022年 6 月

豊岡市教育委員会

## 目 次

I	教育委員会活動等の点検・評価について	1
II	教育委員会会議及び教育委員の活動	3
1	教育委員会の概要	
2	教育委員会会議の開催状況	
3	教育委員会会議以外の活動状況	
4	教育委員活動のまとめ	
III	教育委員会施策の点検・評価	15
	・ 第4次とよおか教育プラン2021年度実践計画の検証について	
	・ 第4次とよおか教育プラン2021年度実践計画 施策・取組一覧	
	・ 第4次とよおか教育プラン2021年度実践計画 検証総括シート	
	【基本方針 1 「生きる力」を育む教育の推進】	
	基本的方向 1 「あたまの力」の育成	
	基本的方向 2 「こころの力」の育成	
	基本的方向 3 「からだの力」の育成	
	基本的方向 4 「あたま・こころ・からだの3つの力を支える基礎力」の育成	
	基本的方向 5 特別支援教育の充実	
	【基本方針 2 子どもたちの学びを支える仕組みの確立】	
	基本的方向 1 教職員の資質・能力の向上	
	基本的方向 2 学校園の組織力の強化	
	基本的方向 3 安全・安心な教育環境の整備・充実	
	基本的方向 4 家庭と地域による学校と連携した教育の推進	
IV	外部有識者の総評	55

# I 教育委員会活動等の点検・評価について

## 1 趣 旨

豊岡市教育委員会では、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第26条の規定に基づき、2008年度から教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価を行っています。

本年度も法の趣旨に基づき、効果的な教育行政の推進に資するとともに、市民に対する説明責任を果たすため、2021年度の教育施策の実施状況について点検及び評価を行いました。

この点検・評価の結果を踏まえ、今後の教育行政施策の改善や見直しに努めるとともに、教育環境の整備・充実に努めてまいりますので、市民の皆様の一層のご理解とご協力をお願い申し上げます。

### ■参考■

地方教育行政の組織及び運営に関する法律（抜粋）

（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第4項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

## 2 実施方法

豊岡市教育委員会活動の実績報告と「第4次とよおか教育プラン（2020年2月策定）」を基に策定した「2021年度実践計画（2021年3月策定）」に位置付けた施策・取組について点検及び評価を行い、その結果について報告書を作成し、議会に提出するとともに、市ホームページへの掲載等により公表します。

## 3 教育委員会活動等の点検・評価の方法

### (1) 教育委員会会議及び教育委員の活動

毎月定例的に開催される教育委員会会議の開催状況、審査議案、報告事項、さらに学校訪問をはじめとする教育関係施設や各種事業の視察、委員研修、大会への参加状況等を記載しています。

## (2) 教育委員会施策の点検・評価

点検・評価する事業は、第4次とよおか教育プラン2021年度実践計画に位置付けた全ての施策・取組を対象とします。

点検・評価の方法は、学校現場及び各担当課による自己検証のほか、検証委員会による外部検証を行うとともに、年度末において教育委員会による最終検証を行いました。

## (3) 外部有識者の総評

点検及び評価にあたり、点検評価の客観性を確保するとともに、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るため、外部評価を依頼し、教育委員会が実施した事業について、公正・的確な意見を述べていただくこととしました。

外部評価は、第4次とよおか教育プランの推進など、豊岡の教育行政に深く携わっていただいている兵庫教育大学大学院学校教育研究科准教授の安藤福光氏にお願いしました。

## Ⅱ 教育委員会会議及び 教育委員の活動

## 1 教育委員会の概要

教育委員会は、首長から独立した行政委員会として、全ての都道府県及び市町村に設置されており、教育行政における重要事項や方針を決定し、教育長が具体的な事務を執行しています。

豊岡市では、2017年5月17日に新制度による教育長の任命が行われました。豊岡市教育委員会は、教育長と4人の委員をもって組織され、地方における教育行政の中心的な担い手としてその役割を果たすことが求められています。

豊岡市教育委員会委員名簿 (2021年度)

職名	氏名	任期
教育長	嶋 公 治	2020年5月17日～2023年5月16日
委員 (教育長職務代理者)	佐伯 和 亜	2020年5月17日～2024年5月16日 (教育長職務代理者 2019年5月17日～)
委 員	向 井 美 紀	2021年5月17日～2025年5月16日
	飯 田 正 巳	2018年5月17日～2022年5月16日
	成 田 壽 郎	2019年5月17日～2023年5月16日

## 2 教育委員会会議の開催状況

教育委員会会議は、原則として毎月1回「教育委員会定例会」を、緊急的な協議議題等があれば必要に応じて「教育委員会臨時会」を開催することとしており、教育行政の基本方針や重要施策等を決定しています。

2021年度は16回の会議を開催し、人事案件や規則、予算案など合計35件の議案について審議を行うとともに、39件の報告・協議を行い、教育行政の方針等を決定しました。

- ◆教育委員会定例会 12回
- ◆教育委員会臨時会 4回 合計16回

### 【議案審議内容】

- |                                   |    |
|-----------------------------------|----|
| (1) 教育に関する事務の管理及び執行の基本的な方針に関する事   | 9件 |
| (2) 教育委員会規則の制定及び改廃に関する事           | 8件 |
| (3) 職員（教職員を含む）の人事に関する事            | 2件 |
| (4) 法令又は条例に定めのある附属機関の委員の委嘱に関する事   | 1件 |
| (5) 教育予算に関する事                     | 5件 |
| (6) 教育財産の取得・用途廃止、所管換等に関する事        | 3件 |
| (7) その他（附属機関以外の委員の委嘱、物品購入契約の締結など） | 7件 |

● 教育委員会会議開催状況

会議区分	開催日	開催場所
第1回定例会	2021年4月23日(金)	本庁舎 庁議室
第2回定例会	2021年5月17日(月)	本庁舎 庁議室
第3回定例会	2021年6月22日(火)	本庁舎 庁議室
臨時会	2021年7月5日(月)	本庁舎 会議室6-1
第4回定例会	2021年7月16日(金)	本庁舎 第2委員会室
第5回定例会	2021年8月18日(水)	本庁舎 第2委員会室
第6回定例会	2021年9月27日(月)	豊岡稽古堂 交流室3-1
第7回定例会	2021年10月26日(火)	本庁舎 第2委員会室
第8回定例会	2021年11月24日(水)	本庁舎 第2委員会室
第9回定例会	2021年12月23日(木)	本庁舎 庁議室
第10回定例会	2022年1月21日(金)	本庁舎 第2委員会室
第11回定例会	2022年2月14日(月)	本庁舎 第3委員会室
臨時会	2022年2月22日(火)	本庁舎 教育長室
臨時会	2022年3月8日(火)	本庁舎 教育長室
臨時会	2022年3月23日(水)	本庁舎 大会議室
第12回定例会	2022年3月25日(金)	本庁舎 庁議室

● 2021年度 教育委員会会議審議案件等一覧

第1回定例会	2021年4月23日(金)
審議案件	
議案第1号	豊岡市奨学生選考委員会委員の委嘱について…可決
議案第2号	豊岡市学校給食センター運営委員会委員の任命について…可決
報告案件	
報告第1号	寄附物件の受納について
報告第2号	兵庫県豊岡市立港小学校印及び兵庫県豊岡市立港小学校長印の公印新調について
報告第3号	豊岡市家庭的保育事業等の認可等に関する規則の一部を改正する規則制定について

報告第4号	豊岡市大学生等修学支援臨時特別給付金支給事業実施要綱の制定について
報告第5号	豊岡市補助金等交付要綱の一部を改正する要綱制定について

第2回定例会 2021年5月17日(月)	
審議案件	
議案第3号	豊岡市社会教育委員に関する条例施行規則を廃止する規則について…可決
議案第4号	豊岡市教育長に対する事務委任規則の一部を改正する規則の制定について…可決
議案第5号	豊岡市交通遺児奨学生の審査について…決定
報告案件	
報告第6号	豊岡市教育委員会の権限に属する事務の補助執行に属する規定の一部を改正する訓令について
報告第7号	豊岡市大学生等修学支援臨時特別給付金支給事業実施要綱の一部を改正する要綱制定について
報告第8号	寄附物件の受納について
協議案件	
教育委員会の点検・評価報告書について	
教育委員が務める各種協議会等の委員について	
2021年度の教育委員会活動計画について	

第3回定例会 2021年6月22日(火)	
審議案件	
議案第6号	豊岡市奨学生の選考について…決定
議案第7号	2021年度教育委員会の点検・評価報告書の決定について…可決
報告案件	
報告第9号	豊岡市学校給食センター運営委員会委員の任命について
報告第10号	寄附物件の受納について
報告第11号	教育長が臨時に代理した令和3年度6月専決補正教育関係予算案に関する意見について承認を求めることについて
報告第12号	豊岡市学校給食調理等業務契約候補者選定委員会設置要綱制定について
報告第13号	豊岡市大学生等修学支援臨時特別給付金支給事業実施要綱の一部を改正する要綱制定について
報告第14号	令和3年6月市議会答弁概要について

臨時会 2021年7月5日(月)	
審議案件	
議案第8号	豊岡市立高橋小学校及び高橋認定こども園の統合に関する要望書に対する教育委員会の方針について…可決



第4回定例会 2021年7月16日(金)	
報告案件	
報告第15号	寄附物件の受納について
報告第16号	豊岡市大学生等修学支援臨時特別給付金支給事業実施要綱の一部を改正する要綱制定について
報告第17号	豊岡市補助金等交付要綱の一部を改正する要綱制定について

第5回定例会 2021年8月18日(水)	
審議案件	
議案第9号	令和4年度使用教科用図書採択について…決定
議案第10号	令和3年度9月補正教育関係予算案に関する意見について…承認
報告案件	
報告第18号	寄附物件の受納について
報告第19号	豊岡市就学援助費受給世帯等特別給付金支給事業実施要綱の制定について

第6回定例会 2021年9月27日(月)	
審議案件	
議案第11号	豊岡市放課後子どもプラン事業運営委員会設置要綱の一部を改正する要綱の制定について…可決
報告案件	
報告第20号	寄附物件の受納について
報告第21号	豊岡市学校給食調理等業務契約候補者選定委員会設置要綱の一部を改正する要綱の制定について
報告第22号	豊岡市学校給食調理等業務における契約候補者の選定結果について
報告第23号	豊岡市教育委員会事務局が所管する補助金等交付要綱の制定について
報告第24号	令和3年9月市議会答弁概要について

第7回定例会 2021年10月26日(火)	
報告案件	
報告第25号	豊岡市補助金等交付要綱を廃止する要綱制定について
報告第26号	寄附物件の受納について

第8回定例会 2021年11月24日(水)	
審議案件	
議案第12号	豊岡市立小学校及び中学校の設置に関する条例等の一部を改正する条例制定について…承認
議案第13号	豊岡市立保育所の設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例制定について…承認

議案第 14 号	豊岡市立市民交流広場の設置及び管理に関する条例制定について…承認
議案第 15 号	豊岡市立こども広場の設置及び管理に関する条例制定について…承認
議案第 16 号	豊岡市立子育てセンターの設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例制定について…承認
議案第 17 号	豊岡市立市民交流広場及び豊岡市立こども広場の指定管理者の指定に関する意見について…承認
議案第 18 号	令和 3 年度 12 月補正教育関係予算案に関する意見について…承認
報告案件	
報告第 27 号	寄附物件の受納について

第 9 回定例会 2021 年 12 月 23 日 (木)	
審議案件	
議案第 19 号	令和 3 年度 12 月補正 (国補正予算関係分) 教育関係予算案に関する意見について…承認
議案第 20 号	豊岡市立小中学校適正規模・適正配置計画の策定について…可決
報告案件	
報告第 28 号	令和 3 年 12 月市議会答弁概要について
報告第 29 号	寄附物件の受納について

第 10 回定例会 2022 年 1 月 21 日 (金)	
審議案件	
議案第 21 号	豊岡市立小学校及び中学校の管理運営に関する規則及び豊岡市立学校の通学区域等に関する規則の一部を改正する規則制定について…可決
議案第 22 号	豊岡市立学校給食センターの設置及び管理に関する条例施行規則の一部を改正する規則制定について…可決
議案第 23 号	豊岡市教育委員会公印規程の一部を改正する訓令制定について…可決
報告案件	
報告第 30 号	豊岡市立保育所の設置及び管理に関する条例施行規則の一部を改正する規則制定について
報告第 31 号	寄附物件の受納について

第 11 回定例会 2022 年 2 月 14 日 (月)	
審議案件	
議案第 24 号	令和 3 年度 3 月補正 (第 19 号) 教育関係予算案に関する意見について…承認
議案第 25 号	令和 4 年度当初教育関係予算案に関する意見について…承認
議案第 26 号	2022 年度教育行政の方針と施策の展開について…承認
議案第 27 号	教育財産の用途廃止について…可決
報告案件	
報告第 32 号	教育長が臨時に代理した令和 3 年度第 18 号専決補正教育関係予算案に関する意見について承認を求めることについて

報告第 33 号 寄附物件の受納について
----------------------

臨時会 2022年2月22日(火)
審議案件
議案第28号 豊岡市立学校教職員(管理職)の人事(内申)について…承認

臨時会 2022年3月8日(火)
審議案件
議案第29号 豊岡市立学校教職員(一般)の人事(内申)について…承認

臨時会 2022年3月23日(水)
審議案件
議案第 30 号 豊岡市立静修小学校の統合に関する要望書に対する教育委員会の方針について…可決

第 12 回定例会 2022年3月25日(金)
審議案件
議案第 31 号 豊岡市通学用バス運行管理規則の一部を改正する規則制定について…可決
議案第 32 号 豊岡市教育委員会事務局等組織規則の一部を改正する規則制定について…可決
議案第 33 号 第 4 次とよおか教育プラン 2022 年度実践計画の策定について…可決
議案第 34 号 教育財産の用途廃止について…可決
議案第 35 号 教育財産の用途廃止について…可決
報告案件
報告第 34 号 令和 4 年 3 月市議会答弁概要について
報告第 35 号 教育長が臨時に代理した令和 4 年度第 1 号専決補正教育関係予算案に関する意見について承認を求めることについて
報告第 36 号 豊岡市立認定こども園の設置及び管理に関する条例施行規則の一部を改正する規則制定について
報告第 37 号 豊岡市教育委員会事務局が所管する補助金等交付要綱の一部を改正する要綱制定について
報告第 38 号 豊岡市教育委員会事務局が所管する補助金等交付要綱の一部を改正する要綱制定について
報告第 39 号 寄附物件の受納について

### 3 教育委員会会議以外の活動状況

#### (1) 総合教育会議

地方教育行政の組織及び運営に関する法律の改正により、2015 年度から地方公共団体の長と教育委員会で構成する総合教育会議の設置が義務付けられました。

これを受けて、次のとおり会議を開催しました。

ア 第1回総合教育会議

- ・日 時 2021年5月24日(月)午後3時30分から午後5時
- ・場 所 本庁舎 庁議室
- ・内 容 ・第4次とよおか教育プランについて

イ 第2回総合教育会議

- ・日 時 2021年11月11日(木)午後3時から午後4時30分
- ・場 所 本庁舎 庁議室
- ・内 容 ・学校における市費職員の配置について  
・校務支援システムの活用状況について  
・プログラミング教育の状況について

(2) 教育懇談会

教育委員会では、市が進めている教育施策の内容を市民に理解していただくとともに、教育委員と市民との対話を通して市民の声を教育行政に反映することを目的として教育懇談会を開催しています。

「豊岡市立小中学校適正規模・適正配置審議会」から2021年2月に本市の小中学校のあるべき姿について答申を受けました。この答申の内容について、広く市民の皆様へ周知し、これからの小中学校のあり方について一緒に議論するため、2021年7月1日から7月12日にかけて、市内6会場で説明会を開催し、質疑応答や意見交換を行いました。

そして、2021年11月25日から12月6日までに、豊岡市内の6会場で「豊岡市立小中学校適正規模・適正配置計画(案)」説明会を開催し、保護者や地域の皆さんと同計画(案)について質疑応答や意見交換を行い、2021年12月には計画を策定しました。

また、「豊岡市における幼児教育・保育及び放課後児童のあり方計画」による事業を推進するにあたり、2021年7月10日から7月21日までに、計画前期(2021~25年度)に就学前施設(幼稚園・保育所・認定こども園)の再編・統合を計画している6地区を対象に地区説明会を開催し、意見交換を行いました。

○「豊岡市立小中学校の適正規模・適正配置のあり方について」答申説明会

開催日	対象地域	会 場	出席者数
7月1日(木)	豊岡 (港地区除く)	豊岡市民プラザ	47人
7月2日(金)	日高	日高地区コミュニティセンター	56人
7月5日(月)	城崎、港地区	城崎市民センター	19人
7月7日(水)	出石	弘道地区コミュニティセンター	47人
7月9日(金)	竹野	竹野地区コミュニティセンター	25人

7月12日(月)	但東	但東市民センター	37人
合計	6会場		231人

○「豊岡市における幼児教育・保育及び放課後児童のあり方計画」地区説明会

開催日	対象地区	会場	出席者数
7月10日(土)	新田地区	新田地区コミュニティセンター	17人
7月14日(水)	田鶴野地区	田鶴野地区コミュニティセンター	12人
7月15日(木)	神美地区	神美地区コミュニティセンター	22人
7月16日(金)	中筋地区	中筋地区コミュニティセンター	35人
7月19日(月)	日高地区	日高地区コミュニティセンター	23人
7月21日(水)	豊岡地区	豊岡地区コミュニティセンター	14人
合計	6会場		123人

○「豊岡市立小中学校適正規模・適正配置計画(案)」説明会

開催日	対象地域	会場	出席者数
11月25日(木)	豊岡 (港地区除く)	豊岡市民プラザ	42人
11月26日(金)	城崎、港地区	城崎市民センター	27人
11月29日(月)	竹野	市役所竹野庁舎	31人
12月1日(水)	出石	市役所出石庁舎	46人
12月3日(金)	日高	日高地区コミュニティセンター	67人
12月6日(月)	但東	但東市民センター	30人
合計	6会場		243人

(3) 教育委員会会議以外の活動状況一覧

月	学校訪問・学校園行事	視察、研修会、各種委員会	その他行事等
4	教職員辞令交付式 校園長会挨拶 小学校入学式 中学校入学式 幼稚園・認定こども園入園式 五荘小学校統合式 港小学校開校式		
5		教育委員学習会（総合教育会議） 第1回総合教育会議 豊岡市民生委員推薦会（書面）	
6	トライやるウィーク視察	豊岡市奨学生選考委員会 豊岡市小中一貫教育推進協議会 豊岡市要保護児童対策協議会代表者会議 とよおか2020スポーツ実行委員会及び東京2020オリンピック聖火リレー豊岡市実行委員会に係る第4回実行委員会	
7	学校園訪問 （城崎小、日高西中）	但馬教育委員連合会理事会・総会・研修会（豊岡市） 豊岡市立小中学校適正規模・適正配置にかかる答申説明会 「豊岡市における幼児教育・保育及び放課後児童のあり方計画」地区説明会	
8		豊岡市進学対策協議会 但馬教育塔合祀祭（但馬文教府） 豊岡市教育フォーラム	
9		豊岡市進学対策協議会県教育委員会県要望（神戸市） 市町村教育委員会オンライン協議会	
10	学校園訪問 （田鶴野小・幼、竹野小、福住小・幼、港小、城崎中、中竹野小）		
11	学校園訪問 （八条認こ、竹野認こ、三方小、日高幼、高橋認こ） 「サンタクロース会議」参観	教育委員学習会（総合教育会議） 第2回総合教育会議 豊岡市立小中学校適正規模・適正配置計画（案）説明会 近畿市町村教育委員会研修大会（尼崎市）	出石町青少年健全育成推進大会（出石多目的ホール）
12		豊岡市立小中学校適正規模・適正配置計画（案）説明会	東井義雄創生塾研究会 東井義雄教育塾講演会
1		行政視察事前学習会（養父市）	
2		豊岡市小中一貫教育推進協議会（オンライン） 教育委員協議会（とよおか教育プラン）	
3	中学校卒業式 幼稚園・認定こども園卒園式 小学校卒業式 中竹野小学校閉校式 竹野南小学校閉校式	豊岡市非認知能力向上対策事業演劇ワークショップに係る検証会議	

#### 4 教育委員活動のまとめ

コロナ禍の2021年度においても、教育委員会では、本市の教育理念『ふるさと豊岡を愛し 夢の実現に向け挑戦する子どもの育成～非認知能力（やり抜く力・自制心・協働性）を子どもたちに～』を示した第4次とよおか教育プランに基づき、“常に子どもの事実学び、子どもに寄り添う教育”を基本姿勢とした教育施策を展開し、毎年度定める実践計画に掲げる施策の取組を推進しました。

教育行政の効果的な推進に当たっては、市民や保護者の教育に対する理解と協力が必要不可欠であると考えています。そのため、市民に身近で開かれた教育委員会となるよう、移動教育委員会会議の代替として、各地域で小中学校適正規模・適正配置計画案の説明会等を実施したほか、教育委員会会議の開催日や審議結果などを公表するとともに、市の教育情報を掲載した「豊岡きょういく」を年3回発行し、教育情報の発信に努めました。

また、教育委員会会議での方針決定に保護者や教育現場の意見を反映させるため、学校園訪問、教育研修会等へ参加し、学校、家庭、地域の現状把握を行い、連携した教育活動の充実を図りました。

教育委員会では、今後も少子化の進行が見込まれる中、「豊岡市立小中学校適正規模・適正配置審議会」に豊岡市の小中学校の適正規模・適正配置のあり方について諮問し、2021年2月に答申を受けました。答申を受け、2021年7月1日から7月12日の間に答申内容の市民説明会を開催、11月25日から12月6日の間には小中学校適正規模・適正配置計画案の説明会を開催し、12月に「豊岡市立小中学校適正規模・適正配置計画」を策定しました。

また、地域からの要望により、竹野小学校、中竹野小学校、竹野南小学校を統合することとし、統合準備委員会を設置して、地区の関係者とともに調整・協議を重ね、2022年4月に竹野小学校統合式を開催しました。

9年間の系統性と一貫性のあるカリキュラムを実践するため、小中一貫教育「豊岡こうのとりのプラン」を全中学校区で実施しています。中心となる取組である「ローカル&グローバル学習の時間」で「ふるさと教育」、「英語教育」、「コミュニケーション教育」を実践しています。第2期となる2020年度からは、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け「授業でつながる小中一貫教育」をテーマに取り組んでいます。

また、非認知能力の向上をめざし、3年間のモデル校における小学校低学年による演劇ワークショップ（豊岡市非認知能力向上対策事業）の実施を終え、2022年度から全市へ取組を拡充し、更なるプログラムの更新と教職員への周知を進めます。

就学前の保育・教育活動については、市内の保育園、幼稚園、認定こども園の4・5歳児クラスを対象に英語遊び指導員を定期的に派遣し、「英語遊び保育」を実施し、英語や異文化への興味を育むとともに、さまざまな体験活動を通して、人と積極的にかかわろうとする気持ちを育てています。幼児期における運動遊びでは、心も体も健康で豊かな人間性を持ったこどもの育成を推進しています。

また、増加する保育ニーズや少子化の進行等の課題を総合的に解決するため、「豊岡市における幼児教育・保育及び放課後児童のあり方計画」を2021年2月に策定し、7月10日から7月21日の間には、計画前期（2021～25年度）に就学前施設（幼稚園・保育所・認定こども園）の再編・統合を計画している6地区を対象に地区説明会を開催しました。今後、地区説明会でいただいた課題等について検討を進めながら、2025年度までの事業を着実に推進していきます。

教育環境の整備については、安心な教育環境を確保するため、小中学校の屋内運動場等における非構造部材の落下防止対策工事を進めています。学校統廃合により整備対象校を見直し、2022年度までにすべての対象校の整備を完了する予定としております。

新型コロナウイルス感染症対策及び熱中症予防のため、小中学校33校の理科室、音楽室、被服室等の空調設備の整備を進め、2021年夏までに整備を完了しました。

また、国の方針を受け、1人1台の学習用端末の整備を完了し、今後は小中学校の校内通信ネットワークの高速大容量化等、ICTを活用した豊かな学びを提供するための環境整備を図ります。

教育委員会では、「豊岡市学校における働き方改革」推進方針に則り、勤務時間の適正化と学校教育の質の向上を図る取組を進めています。市内の全公立小・中学校における統合型校務支援システムの積極的な活用に取り組むことなどにより、教職員の意識改革が進みましたが、課題もあるため、より一層の推進を図ります。

また、学校運営に地域の声を積極的に生かし、学校と地域が一体となり特色ある学校づくりを進める学校運営協議会制度「コミュニティスクール」を、引き続き、モデル校2校を対象として実施しています。今後は、取組規模の拡充に向け、モデル校の取組の検証を進め、より効果的な実施方法等を検討しながら、地域とともにある学校づくりを推進します。

学校を取り巻く環境は大きく変わってきており、さらに地域の多様な声に耳を傾ける機会も多くなることが予想され、教育委員の役割はますます重要なものであると認識しています。

豊岡市教育委員会では、“常に子どもの事実に学び、子どもに寄り添う教育”を合言葉に、学校園・家庭・地域・行政がそれぞれの役割を理解し連携し、一体となって基本理念の共有と実践活動に邁進していきます。



### Ⅲ 教育委員会施策の 点検・評価

第4次とよおか教育プラン  
2021年度実践計画  
検証総括シート

## 第4次とよおか教育プラン 2021年度実践計画の検証について

### 1 実施方法

2021年度実践計画に定められている指標について、学校現場及び担当課による自己検証のほか、検証委員会による外部検証を行うとともに、年度末において教育委員会による最終検証を行った。

### 2 検証結果の示し方

検証結果は、2つの基本方針で定められた9つの基本的方向ごとに「検証総括シート」を作成し、各々で設定された指標及び施策・取組の検証、外部検証意見を取りまとめた。

また、外部検証結果及び次年度実践計画策定作業を踏まえ、年度末における最終検証を取りまとめた。

### 3 表記・記号の説明

#### (1) 指標項目について

##### ア 「■」印の指標項目

全国学力・学習状況調査（毎年4月20日頃実施・8月下旬結果公表）の結果の数値を使用。従って、実施年度の数値は前年度の取組が反映すると捉えられるが、実施年度の結果を目標値に対応させて評価することとする。

##### イ 「□」印の指標項目

全国学力・学習状況調査以外の全国調査や各担当課による独自調査、取組による結果の数値を使用。

#### (2) 指標数値について

##### ア 2020現状値

・原則は2020年度の実績値を表記するが、取組によっては前年度の実績値を表記する。この場合においては、当該年度を〔 〕で表記する。

##### イ 2021目標値

・2021年度に到達すべき目標値を設定する。

##### ウ 2021指標の実現状況

・原則は2021年度の実績値を表記するが、取組によっては前年度の実績値を表記するものがある。この場合は〔 〕内に当該年度を表記する。

・2021指標の実現状況のうち、（ ）内は2021目標差を、「○」印は2020現状値よりも改善した指標を表す。

(3) 教育委員会（担当課）及び検証委員会による検証結果の評価記号

教育委員会（担当課）検証（中間・年度末）	検証委員検証
S 目標達成・取組完了（目標達成、事業計画完了による取組終了）	○ 妥当
A 継続実施（拡充・現行方法による継続実施）	△ 疑義あり
B 改善実施（取組の改善・見直しによる継続実施）	－ 評価不能
C 抜本の見直し（取組を継続する場合は抜本的な見直しが必要）	※担当した検証委員3名の検証を記載する。
D 未取組廃止（効果・必要性等から取組を廃止）	

## 第4次とよおか教育プラン 2021年度実践計画 施策・取組一覧

基本方針1 「生きる力」を育む教育の推進		担当課
基本的方向1 「あたまの力」の育成		・・・P.22
<b>施策① 学力の向上</b>		
1	1 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の推進及び全国学力・学習状況調査の結果に基づいた分析と対応	こども教育課
2	2 読書活動の習慣化と読書の質の向上をめざした読書活動の推進 <関連>	
3	3 きめ細かな指導の充実を図るための指導補助教員の配置	
<b>施策② 小中一貫教育を核とした連携教育</b>		
4	1 ふるさと教育の推進	こども教育課
5	2 英語教育の推進	
6	3 コミュニケーション教育の推進	
7	4 系統性と一貫性のある寄り添い方で実践する学習指導と生活指導の充実	
8	5 ローカル&グローバル学習の時間の充実に係る研究の推進	
9	6 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を踏まえた小学校区を基本単位とした「園小接続」の推進	
10	7 小規模校の教育課題に対応するための「小小連携教育」の推進	こども教育課
基本的方向2 「こころの力」の育成		・・・P.26
<b>施策① 体系的・系統的なキャリア教育</b>		
11	1 多様な体験活動の実施によるキャリア形成への支援	こども教育課
<b>施策② 子どもたちの発達段階に応じた体験を重視した活動</b>		
12	1 児童会・生徒会活動、リーダー研修会等の充実	こども教育課
13	2 福祉体験活動やボランティア活動など社会体験の機会の充実	
14	3 非認知能力向上のための取組の推進	
15	4 子どもたちが豊岡で世界と出会う音楽祭(おんぶの祭典)の開催	生涯学習課
<b>施策③ 「対話」により考えを深める道徳教育</b>		
16	1 体験的・実践的な活動を通じた道徳性の育成	こども教育課
<b>施策④ 生命の尊厳を基盤とした人権教育</b>		
17	1 今日的人権課題に対応した人権教育の充実	こども教育課
18	2 人権尊重を基盤とした社会をめざす教育の推進と家庭・地域・関係機関との連携の推進	
<b>施策⑤ 過去の災害の教訓を踏まえた防災教育</b>		
19	1 過去の災害を踏まえた防災・減災授業の実施	こども教育課
<b>施策⑥ 読書活動の充実</b>		
20	1 読書活動の習慣化と読書の質の向上をめざした読書活動の推進 <関連>[再掲]	こども教育課
21	2 団体貸出の推進	
22	3 おはなし会等の充実	
23	4 読書に関する情報の提供	
基本的方向3 「からだの力」の育成		・・・P.31
<b>施策① 体力・運動能力の向上</b>		
24	1 「豊岡市版小学校体育準備運動」の共通実践と体育授業の充実	こども教育課
<b>施策② 望ましい食習慣の形成を図る食育</b>		
25	1 食に関する指導の充実と「食育の日」、「弁当の日」の推進	こども教育課
<b>施策③ 健康課題や危機に適切に対応する健康教育・安全教育</b>		
26	1 規則正しい生活習慣の確立	こども教育課
27	2 新型コロナウイルス感染症予防のための能力・態度の育成 <新>	
28	3 安全に対する意識の高揚	

基本的方向4 「あたま・こころ・からだの3つの力を支える基礎力」の育成		・・・P.34
	<b>施策① 健康な体づくり</b>	
29	1 幼児期における運動遊びの推進	こども育成課
	<b>施策② 基本的な生活習慣の確立</b>	
30	1 「規則正しい生活リズム」及び「基本的生活習慣」の定着とその推進	こども育成課
31	2 食育の推進	
	<b>施策③ 様々な体験活動を通じた好奇心や探究心の育成</b>	
32	1 人と関わる力の育成	こども育成課
33	2 自然や身近な環境に関わる経験の積み重ね	
34	3 英語遊び保育の推進	
	<b>施策④ 人の話を聞き、自分の思いを言葉で表現する力の育成</b>	
35	1 自分の思いを伝える力と人の話を聞く力の育成	こども育成課
36	2 感じたことや考えたことを表現する力の育成	
37	3 絵本に親しむ機会の充実	
基本的方向5 特別支援教育の充実		・・・P.37
	<b>施策① 発達特性の理解と早期からのきめ細やかな支援</b>	
38	1 豊岡市こども支援センターの機能の充実	こども教育課
39	2 スーパーバイザー支援事業の実施	
40	3 教職員の専門性向上をめざした実践的研修の推進	
41	4 卒業後までを見通した教育的支援・指導の引継ぎの推進	
42	5 特別支援教育支援員の効果的な活用	
43	6 すくすく訪問支援事業の実施	
44	7 就学前から就学後も継続した相談支援の充実	
	<b>施策② 共に学ぶことで豊かな人間性を育む交流及び共同学習</b>	
45	1 市内特別支援学級の交流の実施	こども教育課

基本方針2 子どもたちの学びを支える仕組みの確立

基本的方向1 教職員の資質・能力の向上		・・・P.40	
<b>施策① 教職員の資質と実践的指導力の向上</b>			
46	1 授業づくりと学級づくりの一体化の質的向上	こども教育課	
47	2 教員の指導力の向上を図る校内研修等の推進		
48	3 校内研修担当者研修の充実		
49	4 初任者等、若手教職員の研修の充実		
50	5 豊岡市中学校教育研究会・教科部会の充実		
51	6 子ども及び教職員のICT活用指導力の向上 <拡>		
52	7 就学前の教育・保育計画「第2次スタンダード・カリキュラム」を活用した就学前教育の充実		こども育成課
<b>施策② ワークライフバランスに配慮した働き方改革</b>			
53	1 「学校における働き方改革」の推進	こども教育課	
基本的方向2 学校園の組織力の強化		・・・P.44	
<b>施策① 教育職員一人一人の力を組織的かつ機動的に生かす協働体制の確立</b>			
54	1 管理職研修の充実	こども教育課	
55	2 学校教育経営研修の充実		
<b>施策② いじめや不登校等への対応</b>			
56	1 いじめの未然防止、早期発見・早期対応の充実	こども教育課	
57	2 小・中学校と関係機関との生徒指導に係る情報交換の推進		
58	3 不登校対策の充実		
59	4 相談支援事業の実施		
60	5 「子どもの心を理解する強化月間」の充実		
61	6 「アセス」を活用した生徒指導の充実		
基本的方向3 安全・安心な教育環境の整備・充実		・・・P.48	
<b>施策① 学校園及び給食センターの安全対策やICT環境等の教育環境の整備・充実</b>			
62	1 学校園施設等の定期的な安全点検及び整備	教育総務課	
63	2 非構造部材等落下防止対策の推進		
64	3 ICT環境の整備		
65	4 地産地消の推進と安全・安心な学校給食の提供		
66	5 通学(園)路の安全点検及び関係機関・保護者・地域との連携強化	こども教育課	
67	6 通学(園)手段の確保		
68	7 安全・安心な学校生活に向けた新型コロナウイルス感染症への対策 <新>		
<b>施策② 様々な困難や課題を抱える子どもたちに対する就学支援</b>			
69	1 就学援助費の支給	こども教育課	
70	2 特別支援教育就学奨励費の支給		
基本的方向4 家庭と地域による学校と連携した教育の推進		・・・P.52	
<b>施策① 家庭における子どもが伸びる習慣づくり</b>			
71	1 「すくすくメッセージ」等を活用した「規則正しい生活リズム」の定着	こども育成課	
72	2 「運動遊びパンフレット」等による家庭や地域での運動遊び・外遊びの促進		
73	3 家庭での基本的な生活習慣と学習習慣の確立	こども教育課	
74	4 ブックスタートの推進	生涯学習課	
<b>施策② 親としての学びへの支援</b>			
75	1 PTA活動の充実	こども教育課	
76	2 子育て家庭を対象とした子育て講座の実施	こども育成課	
77	3 親子が交流できる機会の充実		
<b>施策③ 関係機関の連携による子育て支援</b>			
78	1 子育てに関する相談の充実	こども育成課	
79	2 学校園と家庭児童相談室・こども家庭センターなどの関係機関との連携		
<b>施策④ 地域全体で子どもを育てる環境づくり</b>			
80	1 安全ボランティアによる見守り活動の継続及び活動支援	こども教育課	
81	2 学校・家庭・地域の連携強化		
82	3 「地域とともにある学校」づくりの推進		
83	4 仕事と子育ての両立支援		こども育成課
84	5 子どもと心でつながる市民運動の推進		生涯学習課
85	6 図書ボランティア活動の促進		



# 第4次とよおか教育プラン(豊岡市教育振興基本計画)

## 2021年度実践計画検証総括シート

基本方針1	「生きる力」を育む教育の推進
基本的方向1	「あたまの力」の育成
	子どもたちが、自立して活動していくためには、十分な知識・技能、これらを基盤として自ら解を導く思考力・判断力・表現力等の育成、主体的に学びに向かう力・人間性等を身に付けることが重要である。 このため、①学力の向上、②小中一貫教育を核とした連携教育等に取り組む。

### 〔指標の検証〕

指標名	2020現状値	2021目標値	2021指標の実現状況
■「全国学力・学習状況調査」における正答率40%以下の児童生徒の割合	小国 - 小算 - 中国 - 中数 - ※2020年度中止	小国 12.5%以下 小算 8.5%以下 中国 9.2%以下 中数 21.1%以下	小国 16.0%(-3.5P)- 小算 11.7%(-3.2P)- 中国 8.8%(+0.4P)- 中数 23.2%(-2.1P)-
■国語、算数、数学の勉強が好きだと思っている児童生徒の割合	小国 63.3% 小算 71.3% 中国 57.1% 中数 57.5%	小国 69.2% 小算 73.6% 中国 66.7% 中数 62.9%	小国 59.4%(-9.8P) 小算 72.1%(-1.5P)○ 中国 57.8%(-8.9P)○ 中数 58.0%(-4.9P)○
■授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいると思う児童生徒の割合	小 85.8% 中 78.4%	小 86.4% 中 79.8%	小 84.6%(-1.8P) 中 81.2%(+1.4P)○
■話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思う児童生徒の割合	小 84.9% 中 85.6%	小 2020現状値以上 中 2020現状値以上	小 82.8%(-2.1P) 中 80.3%(-5.3P)
■家庭など学校での授業以外で平日に学習時間が30分以上の児童生徒の割合(学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わっている時間も含む)	小 92.7% 中 92.6%	小 95.2% 中 2020現状値以上	小 89.7%(-5.5P) 中 93.6%(+1.0P)○
■地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがある児童生徒の割合	小 61.6% 中 51.4%	小 63.9% 中 2020現状値以上	小 55.9%(-8.0P) 中 50.7%(-0.7P)

■・・・全国学力・学習状況調査の児童生徒質問紙を用いて評価を行う指標。

□・・・各所管課の事業や独自調査などの結果により評価を行う指標。

※ 全国学力・学習状況調査

国・公・私立学校の小学6年生と中学3年生を対象に実施する、国語、算数・数学、理科の教科に関する調査及び生活習慣や学習環境等に関する調査。(5月実施、8月結果公表)

※ 2021指標の実現状況のうち、( )内は対2021目標差を、○印は2020現状値よりも改善した指標を表す。



教育委員会 (担当課)検証 (取組の継続等)	S 目標達成・取組完了(目標達成、事業計画完了による取組終了)	検証委員検証 (担当課評価の 妥当性)	○ 妥当
	A 継続実施(拡充・現行方法による継続実施)		△ 疑義あり
	B 改善実施(取組の改善・見直しによる継続実施)		— 評価不能
	C 抜本的見直し(取組を継続する場合は抜本的な見直しが必要)		
	D 取組廃止(効果・必要性等から取組を廃止)		

〔施策と取組の自己検証〕

施策① 学力の向上	中間外部検証		年度末検証	所管課
	担当課	検証委員会	教育委員会	
1 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の推進及び全国学力・学習状況調査の結果に基づいた分析と対応	A	○○○	A	こども教育課
2 読書活動の習慣化と読書の質の向上をめざした読書活動の推進	A	△○○	B	
3 きめ細かな指導の充実を図るための指導補助教員の配置	A	○○○	A	

(施策における取組の総括:担当課中間検証)  
 令和3年度全国学力・学習状況調査では、正答率40%以下の子どもの割合は減少してきている。また、話し合うことで自分の考えを深めたり広げたりしている子どもの割合も増えてきている。  
 今後、全国学力・学習状況調査の分析を重ね、豊岡市学力向上検討委員会による授業改善の提案や、5つの『徹底・継続』実践事項を基盤にした授業づくりを進め、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を継続していく。

施策② 小中一貫教育を核とした連携教育	中間外部検証		年度末検証	所管課
	担当課	検証委員会	教育委員会	
1 ふるさと教育の推進	A	○○○	A	こども教育課
2 英語教育の推進	A	○○○	A	
3 コミュニケーション教育の推進	A	○○○	A	
4 系統性と一貫性のある寄り添い方で実践する学習指導と生活指導の充実	A	○○○	A	
5 ローカル&グローバル学習の時間の充実に係る研究の推進	A	○○○	A	
6 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を踏まえた小学校区を基本単位とした「園小接続」の推進	A	○○○	A	
7 小規模校の教育課題に対応するための「小小連携教育」の推進	A	○○○	A	

(施策における取組の総括:担当課中間検証)  
 コロナ禍において、様々な活動が制限されているが、各校では、それぞれできる取組を継続していく。ふるさと教育ではふるさと豊岡そのものを学ぶことと合わせて、探究的な学びの場として、教科横断的に学んでいく学び方を大事にしていく。英語教育でも、外国語活動や英語としての学びだけでなく、学んだことを活用できるよう、さらに工夫が必要である。コミュニケーション教育は、演劇的手法を確実にねらいに沿って行うほか、通常の授業でもコミュニケーション能力育成の視点を活かしつつ、教科本来のめあてが達成できるよう研究することが重要である。  
 今後も、豊岡の特徴的なローカル&グローバル学習の時間の実践を重ね、子どもたち一人一人に確かな力をつけていく。

〔中間外部検証意見〕

〔年度末教育委員会検証〕

施策①-1

各学校において「授業における5つの徹底継続・実践事項」の意識は高まってきている。市教育委員会が一貫して各校を指導している成果である。

豊岡市学力向上委員会が機能し、それぞれの分析や対応策を適切に行っている。

「授業における5つの徹底継続・実践事項」を基盤とした授業づくりについて、豊岡市学力向上検討委員会、校内研修担当者研修会、学力向上に係る学習会、授業改善実践事例集等との関連・連動を図ります。

施策①-2

新型コロナウイルス感染症対策により、図書ボランティアの活動が停滞している。読み聞かせができにくい状態である。学校の授業時間以外に読書を「全くしない」と回答した生徒の割合が高く、読書習慣が定着しない状況が見られる。

図書ボランティアによる読み聞かせを実施しづらい状況が続いていますが、今後も学校の実態に応じた感染症対策を講じたうえで実施していきます。

図書館と学校がうまくつながることができれば、学校も図書館のノウハウを入れることができ、図書館にとっても利用者が増えて良いのではないだろうか。

タブレット端末を活用しながら図書館情報を発信するなど、図書館との連携を図っていきます。

市内の子どもの読書率が全国と比較して低いのであれば、読書率が高い地域がどのような取組をしているか、事務局で情報収集を行い、学校にフィードバックすれば現場の先生も取り組みやすいのではないだろうか。

各校の実態に応じて工夫された読書活動の推進につながる取組を共有していきます。

施策①-3

特別な支援を要する児童生徒が増えている中、特別支援教育支援員、特別支援教育アドバイザー、不登校対策指導補助教員等はそれぞれのニーズに応じ、学校教職員と連携し、大きな効果上げている。

これからも、多様な視点を持った教職員が連携を図り、児童生徒に寄り添い、支援・指導できるように努めていきます。また、研修会等を実施し、より適切に支援・指導できるように、それぞれの資質を高めていきます。

施策②-1~3

これらの取り組みについては、豊岡市の特色ある教育として多くの人に知ってほしいと思う。検証委員になって「とよおか教育プラン」を改めて知ることが多くあった。今、現在子育てをしている方々に知っていただきたい。9月以降、但東町にUターン、Iターンの家族を聞いている。子育て世代の方たちだが「豊岡市を選んだのは、素晴らしい選択ですよ。」と言ってあげたい。

「ローカル&グローバル学習の時間」の取組は、豊岡ならではの特色ある教育と考えています。取組の充実とともに、保護者、地域への授業公開や啓発に努めていきます。

施策②-1

各校が実態に応じて、計画的にふるさと教育を実施し、「ふるさとを愛する心」を育てている。

しかし、地域の行事に参加する生徒が少ない実態がある。本当の意味での「ふるさと愛」を高めていく必要を感じる。

ふるさと教育は、学校だけで行うことができる学びではありません。ふるさと教育を通して、児童生徒と地域の人との接点ができ、つながりへと発展していきます。「学校が地域に出掛け、地域の人が学校に出掛ける」、この関係性を続けていくことが大切と考えます。

#### 施策②-2

概ね、計画通りに進められていると思うが、新型コロナウイルス感染症の影響でALTの配置が予定通りに進まなかったことは残念である。

コロナ禍において、「English Summer Camp」の実施が困難であることは仕方のないことであるにしても、ICTを活用したオンラインでの実施をはじめ、代替もしくは併用など、複数のバリエーションによる対応を考えてもよいのではないか。

#### 施策②-3

各校が教育課程に位置づけ、計画的に推進している。保護者や地域の方に、コミュニケーション授業(演劇的手法)の重要性や実施後の成果を説明する必要がある。

#### 施策②-4

各ブロックでの系統性と一貫性のある指導は定着してきている。子どもだけでなく保護者の中学校入学への不安は小さくなってきていると思われる。

年間を通じて、シフト変更を繰り返し対応してきました。現時点では、当初計画に沿ったALTの全校配置を実現することができています。

ここ2年間はコロナ感染症対策のため、事業実施を見合わせてきましたが、集合対面形式での実施を念頭に、状況に応じて適切な実施方法を検討していきます。

コミュニケーション育成の4つの視点は、校内研修をはじめ、普段の授業の中にも取り入れられています。保護者に、子どもの声でその成果を届けることに力を入れています。

これからも、各ブロックの実態に応じて取組の質を高めるとともに、小中一貫だより等を通して保護者や地域への情報発信に努めます。

#### 〔基本的方向における総括:教育委員会年度末検証〕

子どもたちが、変化の激しい社会に主体的に関わり、未知の状況にも対応できる資質能力を育成するために「知識及び技能」「思考力・判断力・表現力」「学びに向かう力・人間性等」を身に付けることが重要である。そのため、①学力の向上、②小中一貫教育を核とした連携教育等に取り組んでいる。今年度も5つの徹底継続実践事項を基にした授業改善を進めており、全国学力学習状況調査における豊岡市の平均正答率は、全国平均正答率と同程度であった。

しかし、さまざまな制約があり、学校ならではの学び合いや教え合いがしにくい状況である。また、豊岡の特色ある教育活動や多様な体験活動の制限、学校行事の縮小や中止など、子どもが丸ごと育つ「豊かな学びの機会」がおびやかされているのも事実である。

来年度も子どもたちが安心して、多様な学びに出会えるよう、一つ一つの取組のねらいを再確認し、コロナ禍でも可能な限り実施していけるよう努めていく。

# 第4次とよおか教育プラン(豊岡市教育振興基本計画)

## 2021年度実践計画検証総括シート

基本方針 1	「生きる力」を育む教育の推進
基本的方向 2	「こころの力」の育成
	<p>子どもたちが、人間ならではの感性を働かせて、より豊かに活動していくためには、発達段階に応じた体験的な活動を通じて、子どもたちの豊かな情操や道徳心を培うことが重要である。</p> <p>このため、①体系的・系統的なキャリア教育⑦、②子どもたちの発達段階に応じた体験を重視した活動、③「対話」により考えを深める道徳教育、④生命の尊厳を基盤にした人権教育、⑤過去の災害の教訓を踏まえた防災教育、⑥読書活動の充実等に取り組む。</p> <p>なお、読書活動は、教育プランに基づく方策を新たな「子どもの読書活動推進計画」に位置付け、総合的かつ体系的に取り組を進めていく。</p>

### 〔指標の検証〕

指標名	2020現状値	2021目標値	2021指標の実現状況
■ 将来の夢や目標を持っている児童生徒の割合	小 81.0% 中 70.3%	小 88.8% 中 75.5%	小 79.3%(-9.5P) 中 67.6%(-7.9P)
■ 自分にはよいところがあると思う児童生徒の割合	小 82.0% 中 72.4%	小 86.8% 中 79.1%	小 85.8%(-1.0P)○ 中 75.8%(-3.3P)○
□ ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがあると思う児童生徒の割合	小 93.7% 中 92.5%	小 100% 中 98.9%	小 96.3%(-3.7P)○ 中 93.9%(-5.0P)○
□ 学級みんなで話し合って決めたことなどに協力して取り組み、うれしかったことがある児童生徒の割合	小 94.3% 中 86.5%	小 2020現状値以上 中 87.8%	小 90.2%(-4.1P) 中 87.8%(±0P)○
■ 学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たり30分以上読書をする児童生徒の割合(教科書や参考書、漫画や雑誌除く)	小 36.0% 中 26.7%	小 44.8% 中 32.0%	小 32.3%(-12.5P) 中 26.7%(-5.3P)
□ 図書館の団体貸出を利用した学校園の数	園 11園 小 24校 中 2校	園 16園 小 27校 中 4校	園 10園(-6園) 小 23校(-4校) 中 2校(-2校)
□ 図書館が行うおはなし会等の実施学校園数	園 3園 小 1校 中 0校	園 12園 小 8校 中 3校	園 4園(-8園) 小 2校(-6校)○ 中 0校(-3校)

■・・・全国学力・学習状況調査の児童生徒質問紙を用いて評価を行う指標。

□・・・各所管課の事業や独自調査などの結果により評価を行う指標。

※ 全国学力・学習状況調査

国・公・私立学校の小学6年生と中学3年生を対象に実施する、国語、算数・数学、理科の教科に関する調査及び生活習慣や学習環境等に関する調査。(5月実施、8月結果公表)

※ 2021指標の実現状況のうち、( )内は対2021目標差を、○印は2020現状値よりも改善した指標を表す。

教育委員会 (担当課)検証 (取組の継続等)	S 目標達成・取組完了 (目標達成、事業計画完了による取組終了)	検証委員検証 (担当課評価の 妥当性)	○ 妥当
	A 継続実施 (拡充・現行方法による継続実施)		△ 疑義あり
	B 改善実施 (取組の改善・見直しによる継続実施)		— 評価不能
	C 抜本的見直し (取組を継続する場合は抜本的な見直しが必要)		
	D 取組廃止 (効果・必要性等から取組を廃止)		

〔施策と取組の自己検証〕

施策① 体系的・系統的なキャリア教育	中間外部検証		年度末検証	所管課
	担当課	検証委員会	教育委員会	
1 多様な体験活動の実施によるキャリア形成への支援	A	〇〇〇	A	こども教育課
(施策における取組の総括:担当課中間検証) コロナ禍による様々な制限がかかる中、各校では工夫しながら体験活動等を実施している。今年度、「将来の夢や目標を持っている児童生徒の割合」が2020年度現状値と比べて若干下回る結果となった。昨年度変更または中止せざるをえなかった体験活動がキャリア形成をする上でとても重要なものであることがわかる。 今後も工夫を凝らしながらキャリアの視点に立った教育活動を実施し、キャリア教育を浸透してさせていくことを各校に求めていく。				

施策② 子どもたちの発達段階に応じた体験を重視した活動	中間外部検証		年度末検証	所管課
	担当課	検証委員会	教育委員会	
1 児童会・生徒会活動、リーダー研修会等の充実	A	〇〇〇	A	こども教育課
2 福祉体験活動やボランティア活動など社会体験の機会の充実	A	〇〇〇	A	
3 非認知能力向上のための取組の推進	A	〇〇〇	A	
4 子どもたちが豊岡で世界と出会う音楽祭(おんぶの祭典)の開催	A	〇〇〇	A	生涯学習課
(施策における取組の総括:担当課中間検証) 令和3年度の全国学力学習状況調査質問紙の結果では「自分にはよいところがある(小85.8%・中75.8%)」「ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがある(小96.3%・中93.9%)」と思う児童生徒の割合は、高い水準で推移している。こうした自分の人生や社会を切り拓く力となる「非認知能力」の向上を図る取組を強力に推進するため、非認知能力向上事業の演劇ワークショップの授業公開や事後研修会を開催し、さらなる理解と実践を共有する取組を進めていく。 年度末には、拡大検証会議を開催し、今年度の成果を共有し、教育活動に反映できるよう情報発信する。				

施策③ 「対話」により考えを深める道徳教育	中間外部検証		年度末検証	所管課
	担当課	検証委員会	教育委員会	
1 体験的・実践的な活動を通じた道徳性の育成	A	〇〇〇	A	こども教育課
(施策における取組の総括:担当課中間検証) 全教育活動と道徳教育との関連を図りながら、児童生徒が物事を多面的・多角的にとらえ、自分自身のこととして考えを深められる、他者や自己との「対話」のある授業づくりを推進している。さらに、なぜ問題が生じたのかを調べたり、話し合ったりする「問題解決的な学習」や教材の中の役割を演じたり、動作化したりする「道徳的行為に関する体験的な学習」等を適切に取り入れた授業づくりを進めている。 今後、コロナ感染症対策を徹底した上で、授業参観等で道徳科の授業を公開したり、学校通信等で授業の様子を伝えるなど、学校における道徳教育について家庭や地域の方々の理解を得られる機会を設け、家庭や地域と連携しながら子ども達の道徳性を育てていく。				

施策④ 生命の尊厳を基盤にした人権教育	中間外部検証		年度末検証	所管課
	担当課	検証委員会	教育委員会	
1 今日的な人権課題に対応した人権教育の充実	A	〇〇〇	A	こども教育課
2 人権尊重を基盤とした社会をめざす教育の推進と家庭・地域・関係機関との連携の推進	A	〇〇〇	A	
(施策における取組の総括:担当課中間検証) 人権教育資料(改訂版「ほほえみ」「きらめき」)等を人権教育年間指導計画に位置付け、市内すべての小・中学校において人権教育資料を活用した人権教育を計画的に行っている。さらに、共生社会の実現に向け、児童生徒が、男女共同参画や多文化共生等への理解を深め、多様な生き方の中から自らの生き方を考えられるよう、児童生徒一人一人の個性や能力をいかす教育の充実に取り組んでいる。 今後も、教職員の人権意識の高揚と指導力の向上を図っていくとともに、家庭、地域、関係機関との連携を強化しながら、児童生徒が、あらゆる人権課題に対し、主体的に解決しようとする実践的な行動力を育成していく。				

施策⑤ 過去の災害の教訓を踏まえた防災教育	中間外部検証		年度末検証	所管課
	担当課	検証委員会	教育委員会	
1 過去の災害を踏まえた防災・減災授業の実施	A	〇〇〇	A	こども教育課
(施策における取組の総括:担当課中間検証) 年間3回のメモリアルデーでの防災・減災教育を中心に、すべての学校園で計画的な防災教育が実践されている。また、消防署等の関係機関や地域の防災士等との連携、参観日の授業公開等も実施されている。 今後も家庭、地域、関係機関等との連携強化に努め、地域の災害の特色を意識しながら取り組むことにより、防災教育・防災体制の一層の充実を図っていく。				

施策⑥ 読書活動の充実	中間外部検証		年度末検証	所管課
	担当課	検証委員会	教育委員会	
1 読書活動の習慣化と読書の質の向上をめざした読書活動の推進	A	〇〇〇	A	こども教育課
2 団体貸出の推進	A	〇〇〇	A	生涯学習課
3 おはなし会等の充実	B	〇〇〇	A	
4 読書に関する情報の提供	A	〇〇〇	A	

(施策における取組の総括:担当課中間検証)  
 子どもたちの読書活動の習慣化を図るため、朝学習等を活用した「朝読書」や「家庭読書」に取り組んでいる。新しく改訂した「豊岡市推薦図書一覧」を全児童生徒に配布し、発達段階に応じた様々なジャンルの本に出会う機会を設け読書活動の習慣化を一層図っていく。子どもたちが学びを深め、読書に親しめるよう、学校園への団体貸出やブックリストの提供を通じて読書環境を補完していく。

〔中間外部検証意見〕

〔年度末教育委員会検証〕

施策①-1

キャリア教育は「夢実現力」の育成に不可欠である。新型コロナウイルス感染予防による行事や体験活動の制限は今後も継続される。学習活動が制限されることで体験活動の量の減少と質の低下は避けられないであろう。学年間、校種間でキャリア教育をつなぐ意識をもつことで学びを補充していかななくてはならない。

例えば県のキャリア教育「キャリアパスポート」と市ふるさと教育「ポートフォリオ」を関連付け、引き継ぎの更なる充実を図ることができないだろうか。

自然学校は生きる力を育み、トライやるウィークは本当の仕事の体験ができる。両事業とも有意義な体験であり、継続してほしい。

施策②-1

小中学生の頃からリーダーを経験することは、将来のリーダー育成につながる。今年はコロナ禍で開催できなかったが、来年は中学生のリーダー研修の開催を望む。

コロナ禍において「豊岡市中学校生徒会リーダー研修会」の実施が困難であることは仕方のないことであるにしても、ICTを活用したオンラインでの実施をはじめ、代替もしくは併用など、複数のバリエーションによる対応を考えてもよいのではないか。

施策②-2

福祉体験やボランティアを体験することは、他者を思いやる心を育むことになり継続実施を望む。

施策②-3

市の教育課題解決に向けた重要施策として非認知能力の育成を打ち出し、その啓発と普及を図ろうとする強い意気込みを感じる。「教育フォーラム」で管理職へ向けた研修を、モデル校による「演劇ワークショップ」授業公開で教職員への研修を行い、非認知能力に対する共通理解を図り各校へ取組が浸透していくことを期待する。

施策②-4

子どもたちが「本物」の音楽と出会う機会の増加を望む。

施策③-1

本校はオープンスクールで全学年道徳授業公開を計画している。また「道徳教育実践研究事業」の指定を受け範囲を限定し他校からの授業参観も受け入れている。

「対話的な学び」のある道徳科の授業づくりに向け、今後も市教委の支援・指導の継続を望む。

ふるさと教育で学んだことを意識させながらキャリアパスポートを記入するなど、取組の充実に努めます。

コロナ禍により、実施方法を検討する場合もあり、工夫しながら取組を継続していきます。

来年度も対面集合式での実施を予定していますが、コロナ禍を想定した実施方法も検討し、各校のリーダーが意見を交流し、各校の活動に還元できるよう努めます。

コロナ禍のために、市教委主催の「中学校におけるふれあい育児体験」を中止しました。小学校でも高齢者施設等との交流を見合わせている学校が多くありますが、福祉教育やトライやる・ウィーク、トライやる・アクションと関連付けて実施できるよう努めます。

子どもたちの生きる力を育む非認知能力の取組は、全ての学校・学年・学級で取り組むこととしています。来年度は、全小学校1年生で、演劇ワークショップの授業が始まるため、今後は、授業参観や研修会などを通して、取組への理解啓発を図っていきます。

感染症対策を講じながら、できるだけ多くの子どもたちに、より身近で「本物」の音楽を届けることができるようコンサート数を増やすなど企画を検討します。

今後も学校と連携しながら他者や自己との対話を通して、自己の生き方についての考えを深める「対話的な学び」のある道徳科の授業づくりを推進していきます。

施策④-1

新たな人権課題として新型コロナウイルス感染者・濃厚接触者への偏見・差別が生まれた。昨年度、感染に対して迅速に指導資料が配布され各校で統一した指導を実施している。多様化する人権課題に対して「誰一人として取り残さない」よう配慮された適切な対応がなされている。

SNS等による誹謗・中傷の未然防止など、今日的課題に対応する人権教育は重要であり継続実施が必要である。

施策⑤-1

市が作成する防災指導資料は毎年教職員の評価を反映させ使いやすく改定されている。水害が頻繁に発生している現在、防災課と連携した取組の継続を望む。

最近の気象情報で「過去に経験したことのない災害」と表現されることが多くなっている。いつ発生するかわからない災害へ備える教育はとても重要である。

施策⑥-1~4

児童生徒質問紙では、小学生の読書離れが顕著であることを示す結果となり残念に思う。昨年度「豊岡市推薦図書一覧」の改訂に関わった。現場の教職員と専門性のある図書館司書が連携し熟考を重ね作成した。またコロナ対応の影響もあると思うが「団体貸し出し」、「お話し会」の利用が低調である。こうした図書館の地道な取組を維持継続することは重要であり、学校での活用率の向上を望む。

施策⑥-1

子どもたちの読書活動の習慣化は有意義であり、幼少期からの習慣化に期待したい。

新たな人権課題に応じた指導方法を工夫しながら、人権教育の推進を図っていきます。

発達段階に応じた系統性のある指導を推進していきます。

10.20台風23号メモリアルデーを中心に、引き続き、防災課作成の資料を活用した防災・減災教育を推進していきます。また、資料に対しての学校や教育委員会からの評価を積極的に防災課に伝えるなど、連携を深めていきます。

過去の災害の経験や教訓を伝え、災害発生時に主体的に判断し、行動できる児童生徒の育成に努めます。

豊岡市推薦図書一覧を活用した読書活動のさらなる推進及び図書館による団体貸し出し等の効果的な活用に努めます。学校園に団体貸出の利用方法を分かりやすく周知し、利用促進に努めます。また、おはなし会については、動画配信等の活用が著作権法上行えないため、コロナ対策をしたうえで対面での実施を継続していきます。

園とも連携しながら読書に親しむ児童の育成に努めます。

〔基本的方向における総括：教育委員会年度末検証〕

コロナ禍での不安・ストレスの高まり、子どもが活躍する場の減少、読書の減少とスクリーンタイムの増加等の家庭での生活習慣の乱れなど、子どもの心の状態は危機的な状況にあると認識している。

一方、学校は子どもの心のケアのためのアンケートなどにより、子どもの実態を丁寧に把握し、学校教育全体で子どもの心と体の安定を図っている。年度初めと比較し「なかなか眠れないことがある」と回答する子どもが減少するなど改善が見られる項目もある。こうしたことから、子ども一人一人の声を聴き、子どもが選択し決定する場を保障したり、仲間とやり遂げたりする場を確保するなど、子どもが主体となる教育活動を展開することが重要である。

今後、すべての基盤となる非認知能力の育成に焦点を当て、家庭と連携しながらあらゆる教育活動を非認知能力向上の視点で考え、実践していきたい。



# 第4次とよおか教育プラン(豊岡市教育振興基本計画)

## 2021年度実践計画検証総括シート

基本方針 1	「生きる力」を育む教育の推進
基本的方向 3	「からだの力」の育成
	子どもたちが、活力を持って創造的に活動していくためには、スポーツを楽しみ継続して運動できる資質・能力の育成を図るとともに、健康で安全な生活を送るための基盤となる心身の調和の取れた発達を図ることが重要である。 このため、①体力・運動能力の向上、②望ましい食習慣の形成を図る食育、③健康課題や危機に適切に対応する健康教育・安全教育等に取り組む。

### 〔指標の検証〕

指標名	2020現状値	2021目標値	2021指標の実現状況
<input type="checkbox"/> 新体力テストにおける小学校5年生と中学校2年生の体力合計点のT得点	小5男 — 小5女 — 中2男 — 中2女 — (全国平均T得点50)	小5男 50.8 小5女 52.6 中2男 50.6 中2女 50.2	小5男 52.2 (+1.4)- 小5女 51.5 (-1.1)- 中2男 50.4 (-0.2)- 中2女 49.8 (-0.4)-
<input type="checkbox"/> 体育の授業は楽しいと思う児童生徒の割合	小 — 中 —	小 95.7% 中 90.8%	小 95.4% (-0.3P)- 中 90.6% (-0.2P)-
<input checked="" type="checkbox"/> 朝食を毎日食べる児童生徒の割合	小 86.4% 中 83.8%	小 91.7% 中 87.3%	小 88.0% (-3.7P)○ 中 85.4% (-1.9P)○

■・・・全国学力・学習状況調査の児童生徒質問紙を用いて評価を行う指標。

□・・・各所管課の事業や独自調査などの結果により評価を行う指標。

#### ※ 全国学力・学習状況調査

国・公・私立学校の小学6年生と中学3年生を対象に実施する、国語、算数・数学、理科の教科に関する調査及び生活習慣や学習環境等に関する調査。(5月実施、8月結果公表)

※ 2021指標の実現状況のうち、( )内は対2021目標差を、○印は2020現状値よりも改善した指標を表す。

教育委員会 (担当課)検証 (取組の継続等)	S 目標達成・取組完了 (目標達成、事業計画完了による取組終了)	検証委員検証 (担当課評価の 妥当性)	○ 妥当
	A 継続実施 (拡充・現行方法による継続実施)		△ 疑義あり
	B 改善実施 (取組の改善・見直しによる継続実施)		— 評価不能
	C 抜本的見直し (取組を継続する場合は抜本的な見直しが必要)		
D 取組廃止 (効果・必要性等から取組を廃止)			

〔施策と取組の自己検証〕

施策① 体力・運動能力の向上	中間外部検証		年度末検証	所管課
	担当課	検証委員会	教育委員会	
1 「豊岡市版小学校体育準備運動」の共通実践と体育授業の充実	A	〇〇〇	A	こども教育課
(施策における取組の総括: 担当課中間検証) 幼児期から系統的な指導を継続することは、子どもたちの体力や基礎的な運動能力の向上につながる。各小学校において、「豊岡市小学校体育準備運動」や「運動と学習をセットにした豊岡モデル」を継続実施している。「からだの力」の育成の柱として定着と充実を図るため、成果と課題を分析・検証し、今後も確実に実践を積み重ねていくことが必要である。 また、コロナ禍による体力低下、視力低下が全国的に問題視されているが、本市においても今後集計される豊岡市体力テストの結果をもとに実態把握に努めていく。				

施策② 望ましい食習慣の形成を図る食育	中間外部検証		年度末検証	所管課
	担当課	検証委員会	教育委員会	
1 食に関する指導の充実と「食育の日」、「弁当の日」の推進	A	〇〇〇	A	こども教育課
(施策における取組の総括: 担当課中間検証) 栄養教諭や給食センターと連携し、望ましい食習慣・栄養バランス等についての食育指導、地域食材の収穫体験活動を行っている。また、各教科等の中での食育を充実させたり、毎月19日の「食育の日」や「弁当の日」、さらに食育だよりの発行等を通して、家庭と連携した食に関する指導を行ったりしている。 引き続き、学校園の教育活動全体を通して取組を推進し、食に関する教育の充実を図っていく。				

施策③ 健康課題や危機に適切に対応する健康教育・安全教育	中間外部検証		年度末検証	所管課
	担当課	検証委員会	教育委員会	
1 規則正しい生活習慣の確立	A	〇〇〇	A	こども教育課
2 新型コロナウイルス感染症予防のための能力・態度の育成	A	〇〇〇	A	
3 安全に対する意識の高揚	A	〇〇〇	A	
(施策における取組の総括: 担当課中間検証) 学校園だより等の発行、外部講師等専門機関と連携した研修会の開催等を通して、児童生徒や保護者に規則正しい生活習慣の大切さを呼びかけている。また、保健指導等を通して、心身の健康課題の解決に向けて、発達段階に応じた知識を身につけ、適切に対応できるように努めている。 新型コロナウイルス感染症に関しては、市内での感染者が増加しており、引き続き家庭と連携しながら感染予防に向けた指導を図っていく。				

〔中間外部検証意見〕

〔年度末教育委員会検証〕

基本的方向全般

『からだの力』の育成は、幼児児童生徒の『あたまの力』と『こころの力』の育成の土台となる。

体を動かさなくても生活できる便利な時代になり、インターネットが生活に深く入り込む中、人として健康に生活する力を養うために『からだの力』を十分に育てる事はますます重要になっている。

施策①-1

幼児期からの運動遊びによって育まれた力を活かしながら、今後より良い実践を目指してほしい。

施策②-1

栄養士の訪問や地域の特性を生かした実践を工夫する事で成果を上げている。持続可能な社会についての課題と重なる所もあり、今後も多面的な展開が期待される。

施策③-1

睡眠は朝食摂取等の他の生活習慣を始め、ネット利用、学力や不登校等の大きな課題とも深く関連している。問題が顕在化する思春期の児童生徒への対応と共に、親子が今後続く生活のスタイルをつくる乳幼児期へのかかわりも大切である。大人も含めて睡眠が健康に及ぼす影響が実証され注目を集めている今、PTAや地域と課題を共有して取り組めると良いと考える。

施策③-2

感染を予防するための指導が健康に生活する力の育成につながっていると感じる。差別や偏見を生まないための指導が人権意識を高め民主的な社会を実現する力の涵養につながる事を期待する。

施策③-3

コロナ感染状況を見ながら、可能な範囲で交通安全や防犯意識を高める機会を設けていく事が必要と考える。

「運動することが楽しい」「できるようになった」などの達成感や満足感を味わわせる授業づくりを進めるとともに、運動・栄養・睡眠等のバランスが取れた規則正しい生活習慣の確立について、家庭への啓発に努めます。

引き続き、系統性・連続性を重視しながら、取組の質的向上を図っていきます。

栄養教諭等が小・中学校を訪問し、学校給食を活用した食の指導を行ったり、各教科や総合的な学習の時間に食の持つ多様な側面を関連付けて学習したりするなど、今後も食育の充実を図っていきます。

「早寝・早起き・朝ごはん」をはじめとする規則正しい生活習慣は、児童生徒一人で確立できる問題ではありません。家庭、地域全体の課題ととらえ、PTAなどの関係団体等と積極的に連携を図り、改善に向けて取り組んでいきます。

感染予防のために手洗い等を徹底すること、免疫力向上のために睡眠・運動・食事を適切に行うことを、引き続き指導していきます。また、感染者や濃厚接触者、ワクチン接種の有無に対する配慮を通して、人権意識の向上を図ります。

今後も警察等関係機関と連携を取りながら、交通安全・防犯教室を実施するなど、取組を推進していきます。

〔基本的方向における総括:教育委員会年度末検証〕

学校や家庭において、子どもたちに運動することの大切さを伝えるとともに、運動の楽しさを実感させることが運動をする習慣の定着につながるものと考えます。コロナ禍の終息が見通せない中ではあるが、運動する機会をできる限り確保し、感染症対策を講じながら授業内容を工夫し、運動する楽しさや喜びを味わわせる取組を進めていく。また、子どもたちが健康で安全な生活を送るために、家庭や関係機関と緊密な連携を図りながら取組の充実を図っていく。

# 第4次とよおか教育プラン(豊岡市教育振興基本計画)

## 2021年度実践計画検証総括シート

基本方針 1	「生きる力」を育む教育の推進
基本的方向 4	「あたま・こころ・からだの3つの力を支える基礎力」の育成
	子どもたちが、乳幼児期において、生活や遊びといった直接的・具体的な体験を通して、人間としてよりよく生きるための基礎を培うとともに、心身共に健やかに成長する土台となる基本的な生活習慣等を育成することが重要である。 このため、①健康な体づくり、②基本的な生活習慣の確立、③様々な体験活動を通じた好奇心や探究心の育成、④人の話を聞き、自分の思いを言葉で表現する力の育成等に取り組む。

### 【指標の検証】

指標名	2020現状値	2021目標値	2021指標の実現状況
<input type="checkbox"/> 体を動かして遊ぶことが好きな園児の割合	98.9%	2020現状値以上	99.4%(+0.5P)○
<input type="checkbox"/> 友だちと遊ぶことが好きな園児の割合	99.4%	99.6%	99.3%(-0.3P)
<input type="checkbox"/> 午後9時までには就寝する園児の割合	40.3%	67%	38.6%(-28.4P)
<input type="checkbox"/> 毎日朝食を食べている園児の割合	96.1%	2020現状値以上	94.8%(-1.3P)
<input type="checkbox"/> 毎週1回以上、家庭で絵本の読み聞かせをしている家庭の割合	65.4%	75%	67.1%(-7.9P)○
<input type="checkbox"/> 幼稚園・保育園・認定こども園に行くことが楽しいと思っている園児の割合	99.3%	2020現状値以上	98.7%(-0.6P)
<input type="checkbox"/> 「おはよう」などのあいさつや「ありがとう」のお礼が言える園児の割合	92.5%	2020現状値以上	96.3%(+3.8P)○
<input type="checkbox"/> 家で遊んだ後に、おもちゃなどの片付けができる園児の割合	66.9%	67.4%	65.1%(-2.3P)

■・・・全国学力・学習状況調査の児童生徒質問紙を用いて評価を行う指標。

□・・・各所管課の事業や独自調査などの結果により評価を行う指標。

※ 全国学力・学習状況調査

国・公・私立学校の小学6年生と中学3年生を対象に実施する、国語、算数・数学、理科の教科に関する調査及び生活習慣や学習環境等に関する調査。(5月実施、8月結果公表)

※ 2021指標の実現状況のうち、( )内は対2021目標差を、○印は2020現状値よりも改善した指標を表す。

教育委員会 (担当課) 検証 (取組の継続等)	S 目標達成・取組完了。(目標達成、事業計画完了による取組終了)	検証委員検証 (担当課評価の 妥当性)	○ 妥当
	A 継続実施(拡充・現行方法による継続実施)		△ 疑義あり
	B 改善実施(取組の改善・見直しによる継続実施)		— 評価不能
	C 抜本的見直し(取組を継続する場合は抜本的な見直しが必要)		
	D 取組廃止(効果・必要性等から取組を廃止)		

〔施策と取組の自己検証〕

施策① 健康な体づくり	中間外部検証		年度末検証	所管課
	担当課	検証委員会	教育委員会	
1 幼児期における運動遊びの推進	A	〇〇〇	A	こども育成課
(施策における取組の総括:担当課中間検証) 体を動かして遊ぶ時間が日常保育の中で積極的に・安定的に取り入れられるようになっており、生活習慣の一部となっている。体の力の育成につながることはもちろん、保育者と子どもとの関わり、子ども同士の関わりを通して、非認知能力が発揮される機会や場面が数多くあることから、子どもの育ちを支える礎の取組として、今後も引き続き重点的に取り組んでいきたいと考えている。				

施策② 基本的な生活習慣の確立	中間外部検証		年度末検証	所管課
	担当課	検証委員会	教育委員会	
1 「規則正しい生活リズム」及び「基本的な生活習慣」の定着とその推進	A	〇〇〇	A	こども育成課
2 食育の推進	A	〇〇〇	A	
(施策における取組の総括:担当課中間検証) 園では、子ども達の発達段階や家庭環境等を踏まえつつ、家庭と連携しながら、望ましい生活リズムや基本的な生活習慣の定着に向け、援助や指導を行っている。また、養護教諭や管理栄養士の巡回指導を実施し、園職員と共に、子ども達への意識付け、家庭への啓発等の取組を行っている。基本的な生活習慣は、すぐに身に付けられるものではないため、繰り返し根気よく取り組んでいきたいと考えている。				

施策③ 様々な体験活動を通じた好奇心や探究心の育成	中間外部検証		年度末検証	所管課
	担当課	検証委員会	教育委員会	
1 人と関わる力の育成	A	〇〇〇	A	こども育成課
2 自然や身近な環境に関わる経験の積み重ね	A	〇〇〇	A	
3 英語遊び保育の推進	A	〇〇〇	A	
(施策における取組の総括:担当課中間検証) コロナ禍により、保育全般を見直すことができた。また、子どもの姿(事実)から内面を読み取ることを指標にすることで、関わりのあり方や環境の改善に努めるなど、保育の質をより向上させるよう取り組んでいる。 今後も子ども一人一人を大切にしたい安心感や確かな信頼関係が、子どもの自主的な活動につながり、好奇心や探求心が育ち、自信につながるよう、子どもの姿(事実)から学ぶ姿勢を大切にしたい取組や保育を継続していきたいと考えている。				

施策④ 人の話を聞き、自分の思いを言葉で表現する力の育成	中間外部検証		年度末検証	担当課
	担当課	検証委員会	教育委員会	
1 自分の思いを伝える力と人の話を聞く力の育成	A	〇〇〇	A	こども育成課
2 感じたことや考えたことを表現する力の育成	A	〇〇〇	A	
3 絵本に親しむ機会の充実	A	〇〇〇	A	
(施策における取組の総括:担当課中間検証) 自分の話を聞いてもらえる、思いを話(表現)してもいい、思いを受け止めてもらえる安心感、また、子どもとの信頼関係がこの施策の基盤であると考え、取り組んでいる。 園では、そのための雰囲気作りや(いつでも絵本に親しめる)場の構成、時間の確保など、日々工夫をしている。また、より多様な表現を子ども自身が自己選択し、実現できるよう、今後もより一層子どもの姿の読み取りと環境の構成に努めたいと考えている。				

施策①-1

園生活の遊びの中で、積極的に体を動かす機会が増えており、又、運動遊びへの職員の意識も定着してきていると感じる。しかし、子どもたちが指導員の訪問に刺激を受け、体を動かすことが楽しいと感じるきっかけとなるよう、今後も、更に充実を図りながら継続していただきたい。

施策②

生活リズムや食育は、子どもたちの発達の全てに影響してくる大切なものである為、今後も継続した取り組みを望む。又、生活リズムについては、乳幼児期に確立することが望ましい中、難しい現状も見られる為、家庭への啓発や意識付けが出来るような取り組みの充実が必要だと感じる。

基本的な生活習慣の確立について、就学前施設と小中学校が連携を取り保護者に問題提起することができれば、より受け止めてもらえるのではないだろうか。

施策③

この時期の子どもたちは、遊びが学びである。子どもの姿(事実)から保育・教育をすすめていく中で、様々な体験や人と関わる経験を重ねていくことは、とても大切であると考え、継続した取り組みをお願いしたい。

子どもを主体とした保育・教育への保育者の共通認識と資質向上が大切だと感じる。

施策④

1~3は、幼児期の終わりまでに育てたい10の姿に繋がる大切な取り組みだと考える為、継続をお願いしたい。又、絵本の読み聞かせについては、園だけでなく、家庭と共に取り組んでいくことが大切であると感じる。

運動への意欲を高める要因として、子ども同士の刺激や園職員の励ましが挙げられますが、園外部の運動遊び専任職員ならではの展開による刺激や体験も、その一つになるのではないかと考えています。

園職員と連携しながら、引き続き、子どもたちが意欲を持って体を動かして遊び、心身共に成長できるよう事業展開していきたいと考えています。

望ましい生活リズムの定着については、家庭との連携が不可欠であり、今後も、繰り返し、丁寧に関わっていくよう努めます。また、養護教諭、栄養士の専門性を生かした指導や啓発も各家庭へつながるものとなるようさらに工夫していきます。

基本的な生活習慣の確立については、地域ごとの園小連携の中で、課題を共有し、啓発していくことが重要であると考えます。各園での取組を小学校へ引継ぐとともに、個々の幼児の実態についても丁寧に引継ぎを行っていきます。

どのようなねらいを持って、様々な体験や人と関わるのかを考えてうえで、経験を積み重ねることやそこで見られる子どもの姿をしっかりと捉えること、また次につなげるサイクルが大切だと考えます。また、これらのことを職員間で話し合ったり、情報交換したりし取り組むことで質の向上にもつなげていきたいと考えています。

信頼関係を基盤に、子どもを理解しようとする応答的な関わりの大切さを、より認識できるように取り組んでいきます。絵本に親しむ機会については、生活の中に溶け込むよう読み聞かせなどの園の取組をより充実させるとともに、家庭へも働き掛けていきます。

〔基本的方向における総括:教育委員会年度末検証〕

人間としてよりよく生きるための基礎を培うために、保育者が子ども一人一人の事実に学び、寄り添う保育を実践することの重要性を共通理解し、研修等に取り組めたことはよかった。就学前にかかる一体的な取組により、子どもをより深く理解しようとする姿が見られるようになってきた。

ただし、子どもが自ら生活や遊びを楽しめる環境構成のあり方や、保育者の関わり方など、課題を感じる場面や事項も少なくない。

また、基本的方向の①~④の施策が個々の施策ではなく、つながりあう施策であることを意味付けすることも必要だと感じた。

今後も引き続き、基盤となる「子ども一人一人の事実に学び、寄り添う保育の実践」を大切にしながら、ねらいを持ち丁寧に取り組んでいきたい。また、家庭にも協力してもらえよう、各取組(保育)を可視化したり、取り組み(参加し)やすくしたりするなど、さらに工夫していきたいと考えている。

# 第4次とよおか教育プラン(豊岡市教育振興基本計画)

## 2021年度実践計画検証総括シート

基本方針 1	「生きる力」を育む教育の推進
基本的方向 5	特別支援教育の充実
	一人一人の子どもたちが、特性や発達段階に応じて能力や可能性を最大限に伸ばし、自立して社会参加するために必要な力を育成することが重要である。 このため、①発達特性の理解と早期からの一貫した支援、②共に学ぶことで豊かな人間性を育む交流及び共同学習等に取り組む。

### 〔指標の検証〕

指標名	2020現状値	2021目標値	2021指標の実現状況
■ 学校に行くのが楽しいと思う児童生徒の割合	小 91.7% 中 82.3%	小 2020現状値以上 中 86.9%	小 87.7%(-4.0P) 中 76.8%(-10.1P)
□ 豊岡市子ども支援センターへの支援依頼に対して支援を行った子どもの割合	[2019]100%	100%	[2020]100%(±0P)
□ 通常学級(通級指導除く)で個別の指導計画を作成した児童生徒の割合 ※校内委員会で作成が必要である児童生徒数を内数とする	[2019]100%	100%	[2020]100%(±0P)
□ 通常学級(通級指導除く)で個別の教育支援計画を作成した児童生徒の割合 ※校内委員会で作成が必要である児童生徒数を内数とする	[2019]93%	100%	[2020]100%(±0P)○

■・・・全国学力・学習状況調査の児童生徒質問紙を用いて評価を行う指標。

□・・・各所管課の事業や独自調査などの結果により評価を行う指標。

### ※ 全国学力・学習状況調査

国・公・私立学校の小学6年生と中学3年生を対象に実施する、国語、算数・数学、理科の教科に関する調査及び生活習慣や学習環境等に関する調査。(5月実施、8月結果公表)

※ 2021指標の実現状況のうち、( )内は対2021目標差を、○印は2020現状値よりも改善した指標を表す。

教育委員会 (担当課)検証 (取組の継続等)	S 目標達成・取組完了 (目標達成、事業計画完了による取組終了)	検証委員検証 (担当課評価の 妥当性)	○ 妥当
	A 継続実施 (拡充・現行方法による継続実施)		△ 疑義あり
	B 改善実施 (取組の改善・見直しによる継続実施)		— 評価不能
	C 抜本的見直し (取組を継続する場合は抜本的な見直しが必要)		
	D 取組廃止 (効果・必要性等から取組を廃止)		

〔施策と取組の自己検証〕

施策① 発達特性の理解と早期からの一貫した支援	中間外部検証		年度末検証	所管課
	担当課	検証委員会	教育委員会	
1 豊岡市こども支援センターの機能の充実	A	〇〇〇	A	こども教育課
2 スーパーバイザー支援事業の実施	A	〇〇〇	A	
3 教職員の専門性向上をめざした実践的研修の推進	A	〇〇〇	A	
4 卒業後までを見通した教育的支援・指導の引継ぎの推進	A	〇〇〇	A	
5 特別支援教育支援員の効果的な活用	A	〇〇〇	A	
6 すくすく訪問支援事業の実施	A	—〇〇	A	こども育成課
7 就学前から就学後も継続した相談支援の充実	A	〇〇〇	A	

(施策における取組の総括:担当課中間検証)

個別の教育支援計画や個別の指導計画、園小連絡シート、小中連絡シート、中高連携シート、サポートファイル等を活用して、学年間、学校間で教育的な支援・指導の引継ぎが行われている。

また、特別支援教育コーディネーター等すべての教職員の専門性の向上をめざし、特別支援教育に関する研修を通して、教職員の専門性の向上を図っている。

施策② 共に学ぶことで豊かな人間性を育む交流及び共同学習	中間外部検証		年度末検証	所管課
	担当課	検証委員会	教育委員会	
1 市内特別支援学級の交流の実施	A	〇〇〇	A	こども教育課

(施策における取組の総括:担当課中間検証)

特別支援学級在籍児童生徒の自立をめざし、交流及び共同学習のねらいを明確にし、計画的、組織的に取り組んでいる。他校との交流会については、来年度の実施に向けて、実施時期や内容・方法等を検討しながら取組を進めていく。



〔中間外部検証意見〕

〔年度末教育委員会検証〕

施策①-1~4

一人一人の教育的ニーズを把握するために訪問相談等の依頼に迅速丁寧に対応していただいている。困り感をもつ児童へきめ細かく適切な支援をどのように行なえばよいか日々悩む教職員にとって心強い支えとなっている。

また、個別の指導計画・教育支援計画が100%作成され、継続性のある手厚い支援につながっている。

施策①-5

特別な支援を要する児童生徒の数は年々増加している。支援員を配置していただくことで個に応じた支援の充実が図られ、当該児童はもちろんであるが、他児童にとっても落ち着いた学習環境を提供することができている。

支援員によってスキルに差があり、担任との連携が円滑になされないケースがわずかではあるがあるように聞く。年2回のスキルアップ研修の更なる充実を願う。

施策①-6

支援の必要な子どもが、年々増加していることを感じる。一人一人に寄り添った関わりをしていくためには、まず、一人一人を理解することが大切になってくる。すすすく訪問支援事業等において、臨床心理士・保健師等に、手立てや関わり方等を教えていただくことが、子ども理解へ繋がり、園生活での関わりや保護者の理解・情報共有のきっかけにも繋がっているため、今後も継続した取り組みをお願いしたい。

施策①-7

就学前から就学後も継続した相談支援は、一人一人の子どもたちが楽しく安心して園生活や学校生活を送る為に必要である為、継続した取り組みを望む。

施策②-1

コロナ禍により昨年度より2年間計画立案までとなり実施に至っていないと聞いた。他校児童との交流を楽しみにし、貴重なコミュニケーションの場面になっている。交流範囲を狭め人数を制限する等、実施に向けた検討を期待する。

コロナ禍において「交流活動」の中止は仕方のないことであるにしても、ICTを活用したオンラインでの実施をはじめ、代替もしくは併用など、複数のバリエーションによる対応を考えてもよいのではないかと。

発達検査・相談支援共に、年々増加傾向にあります。心理士を増員し体制を強化したことにより、今後も適切な時期に、迅速に支援できるよう努めます。そして、心理士については、発達障害の知識や検査技能の研修を重ね、多角的な見立てや関わり方の支援ができるよう努めていきます。

また、個別の指導計画・教育支援計画が必要である児童生徒については、必ず作成をし、効果的な活用を図ります。

特別支援教育支援員の研修は、来年度は夏に1回予定しています。支援の基本や、個別の対応、担任や関係機関との連携など、グループワークも取り入れながら資質向上をめざします。

また、支援員同士の学び合いが促されるよう、研修の目的や内容、方法を工夫します。

「支援のいない子はひとりもない」という理念のもと、保育者の気付きを大切にされた訪問依頼に応じての訪問支援事業は、早期発見・早期対応や保育者の資質・力量の向上に奏功しました。継続実施となお一層の充実をめざします。

園児・保護者が安心して就学をめざせるよう、特別支援教育の視点を踏まえた就学ガイドブック「わくわくどきどき1年生」を作成しました。今年度4歳児の保護者、各関係機関に配布することにより、さまざまな情報の共有を図りながら早期からの相談支援の充実を図ります。

作品や動画の交流、交流範囲や人数の見直しなど、コロナ禍での交流のあり方や方法について、市特別支援教育研究会とともに検討していきます。

〔基本的方向における総括:教育委員会検証〕

一人一人の子どもたちが特性や発達の段階に応じて能力や可能性を最大限に伸ばし、自立して社会参加するために必要な力を育成するため、それぞれの教育的ニーズを把握し、早期からの一貫した支援や教育相談、就学後の適切な教育に取り組んでいく。また、教職員の資質を高めるために、特別支援教育研修を継続し行っていく。

# 第4次とよおか教育プラン(豊岡市教育振興基本計画)

## 2021年度実践計画検証総括シート

基本方針 2	子どもたちの学びを支える仕組みの確立
基本的方向 1	教職員の資質・能力の向上
	<p>教職員は、使命感や責任感、教育的愛情、教科や教職に関する専門的知識・実践的指導力等、必要な資質・能力を高めるため、体系的な研修を行うことが重要である。また、増加、多様化する職務の中で、勤務時間の適正化を図り、限られた時間の中でワーク・ライフ・バランスに配慮した働き方改革を行うことが重要である。</p> <p>このため、①教職員の資質と実践的指導力の向上、②ワーク・ライフ・バランスに配慮した働き方改革等に取り組む。</p>

### [指標の検証]

指標名	2020現状値	2021目標値	2021指標の実現状況
<input type="checkbox"/> 先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思う児童生徒の割合	小 93.1% 中 87.7%	小 2020現状値以上 中 2020現状値以上	小 95.5%(+2.4P)○ 中 93.4%(+5.7P)○
<input type="checkbox"/> 授業中に学習に対する児童生徒の興味・関心を高めるために、コンピューターや提示装置を活用して資料などを効果的に提示できる教職員の割合	小[2019]90.7% 中[2019]88.8%	小 92.1% 中 90.4%	小[2020]90.9%(-1.2P)○ 中[2020]89.4%(-1.0P)○

■・・・全国学力・学習状況調査の児童生徒質問紙を用いて評価を行う指標。

□・・・各所管課の事業や独自調査などの結果により評価を行う指標。

※ 全国学力・学習状況調査

国・公・私立学校の小学6年生と中学3年生を対象に実施する、国語、算数・数学、理科の教科に関する調査及び生活習慣や学習環境等に関する調査。(5月実施、8月結果公表)

※ 2021指標の実現状況のうち、( )内は対2021目標差を、○印は2020現状値よりも改善した指標を表す。

教育委員会 (担当課)検証 (取組の継続等)	S 目標達成・取組完了 (目標達成、事業計画完了による取組終了)	検証委員検証 (担当課評価の 妥当性)	○ 妥当
	A 継続実施 (拡充・現行方法による継続実施)		△ 疑義あり
	B 改善実施 (取組の改善・見直しによる継続実施)		— 評価不能
	C 抜本的見直し (取組を継続する場合は抜本的な見直しが必要)		
	D 取組廃止 (効果・必要性等から取組を廃止)		

〔施策と取組の自己検証〕

施策① 教職員の資質と実践的指導力の向上	中間外部検証		年度末検証	所管課
	担当課	検証委員会	教育委員会	
1 授業づくりと学級づくりの一体化の質的向上	A	〇〇〇	A	こども教育課
2 教員の指導力の向上を図る校内研修等の推進	A	〇〇〇	A	
3 校内研修担当者研修の充実	A	〇〇〇	A	
4 初任者等、若手教職員の研修の充実	A	〇〇〇	A	
5 豊岡市中学校教育研究会・教科部会の充実	A	〇—〇	A	
6 子ども及び教職員のICT活用指導力の向上	A	〇〇〇	A	
7 就学前の教育・保育計画「第2次スタンダード・カリキュラム」を活用した就学前教育の充実	A	〇—〇	A	こども育成課

(施策における取組の総括:担当課中間検証)

コロナ禍において、研修会の中止や延期、縮小やリモート開催が続いている。そうした中でも教員の研修は、校内研修を中心に、目の前の子どもたちの課題解決と授業改善のため、地道な取組が続いている。リモート研修の良さを活かしたり、改めて校内研修の価値をあげたりしながら、教職員の資質と実践的指導力の向上を目指していく。学校の持つ「研究推進力」がさらに発揮されるよう、各校の研修に様々な形で関与していく。

施策② ワーク・ライフ・バランスに配慮した働き方改革	中間外部検証		年度末検証	所管課
	担当課	検証委員会	教育委員会	
1 「学校における働き方改革」の推進	B	〇〇〇	B	こども教育課

(施策における取組の総括:担当課中間検証)

各校における業務改善の取組により、教職員の意識改革が進んでいる。2020年度、改訂した「学校における働き方改革」推進方針に則り、「学校における働き方改革」をさらに推進していく。

## 施策①

感染予防のため他校へ出向いて授業を参観する機会が大幅に減少している。また、県外から講師を招聘することが困難なケースもある。そのような中、市で実施される研修会(研修担当者、特別支援教育担当者等)は他校の教職員と交流し刺激を受けながら資質の向上を図る大切な機会となっている。

人数制限等の感染予防対策を行いながら実施し、少しずつ研修の機会を戻していくことを望む。そして研修会等での学びを各校へ広げ、教職員の資質と実践的指導力の底上げがなされることを期待する。

## 施策①-1

コロナ禍において「授業づくり学級づくり」の対面での実施が困難であることは仕方のないことであるにしても、ICTを活用したオンラインでの実施をはじめ、代替もしくは併用など、複数のバリエーションによる対応を考えてもよいのではないか。

## 施策①-2

各校の教育課題に対応する研修において専門家を招聘する予算を確保していただけることはありがたい。

現在、1人1台タブレットを効果的に活用することができるように各校で研修を重ねているところである。この研修は早い段階に強化的に実施し職員の操作能力を高める必要がある。

## 施策①-3

校内研修担当者研修は継続的に実施されている。各校の研修リーダーの自覚を高める機会となっている。

## 施策①-4

新型コロナウイルス感染症のために多くの研修がオンラインで行われている。顔と顔を合わせての研修は意見交流もしやすく、成果が得られる。豊岡ならではの研修の充実をお願いしたい。

## 施策①-5

中学校でも小規模校が多く、実技教科を中心に校内で1人しか教科担当がいらない実態があり、相談ができにくい状況である。そんな中で、この教科部会は研修の深まりや情報交換の絶好の機会となっている。特に新しい学習指導要領が全面実施となった今年度は教育課程の編成や評価づくりに効果的であった。

コロナ禍において全体会を中止したとあるが、ICTを活用したオンラインでの実施をはじめ、代替もしくは併用など、複数のバリエーションによる対応を考えてもよいのではないか。

## 施策①-6

1人1台配布されたタブレットの有効活用のために絶対に深めていかねばならない分野である。優れた実践を各校に紹介していただきたい。

オンラインでの研修、対面での研修を状況や目的に応じて開催していきたいと考えています。他校の実践に触れ、意見を交わすことは、教員の大きな学びとモチベーションの維持につながるがこの2年間で明らかになりました。研修会の目的を明確にし、さらに充実した研修会となるよう努めます。

現場の教員からは、対面集合での研修を求める声が多いのも事実です。実施時期、研修目的等を十分に考慮し、現場の声に応えられるよう研修を計画します。

各校の教育課題解決に向け、教員の資質向上を一層進めていただきたいと考えています。また、ICT活用の研修については、各校の実践交流が十分ではなく、目的に応じた多様な効果的な活用実践の共有が喫緊の課題と考えています。

授業づくりや校内研修の充実に向けて、さらに充実した研修会になるよう目的・内容・持ち方等を検討していきます。

対面集合での研修のニーズが高いことは承知しています。新型コロナウイルス感染状況の合間を縫って、できるものについては対面集合で行いたいと考えます。

教科研究でつながる、また授業づくりでつながるよい研修の場となっています。中学校の教員の研修意欲を高め、学び合いによる研修の充実を支援していきたいと考えています。

担当者会での協議や小グループでの授業研究など、オンラインでの研修の開催も可能になっていますので、多様な方法で研修を進められるよう支援していきます。

情報教育研修会で優れた実践を紹介したり、ICT支援員を活用したりし、効果的な実践を広めていきます。

#### 施策①-7

スタンダード・カリキュラムができて、現在はその手引きを作成している段階である。手引きが出来上がり、どの園でも活用できるようになればよいと考えている。

#### 施策②-1

各校では「働き方改革」「業務改善」の意識は高まってきている。ただし、コロナ感染防止作業、ICT活用、新しい行事の創造等、どんどん新しく行わなければならない業務が生まれている。さらなる校務のスリム化への工夫が必要である。

導入していただいた校務支援システムが有効活用されている。さらに改良を加えていただき、業務改善に力を発揮してほしい。

Withコロナにおける感染予防対策、感染や濃厚接触に係る対応等、学校運営や学級経営において注意を怠ることができない厳しい状況が続いている。出口の見えない未だ経験したことがないストレスが日々蓄積されている。

このような状況であるからこそ公私の区別を明確にし、業務でのストレスをリセットする時間は不可欠である。心身にゆとりをもち教壇に立つことが子ども達に安心感を与える。

生徒指導や保護者対応等、依然超過勤務時間の削減が難しく、担当課の検証は「B」となっている。現在リモートによる出張数の減少や校務支援システム・タブレット端末の活用が急速に進められている。Withコロナによりもたらされたプラスの部分を持ち上げ、「働き方改革」の推進に生かすことができるよう市教委と学校現場が連携し取り組んでほしい。

スタンダード・カリキュラムとあわせて手引きを活用してもらえよう、まなびの公開保育時や研修会等を通して、手引き作成の思いや活用について周知していきたいと考えています。

教育委員会から学校管理職への聞き取りで、教員それぞれの意識改革が進んできていると聞いています。継続して業務改善を働き掛けていきます。

校務支援システムについては、現場の声を聞きながら、必要な改良を加え、よりよく活用していきます。

これまで前例踏襲であった業務、学校行事等について、各校が独自の工夫に基づいた新しいスタイルを確立しつつあります。今後も各校の工夫や実践事例を丁寧に吸い上げ、市全体で共有を図り、「働き方改革」としての取組に活用していきたいを考えます。

#### 〔基本的方向における総括：教育委員会検証〕

教職員の資質と実践的指導力の向上やワーク・ライフ・バランスに配慮した働き方改革を進めるため、研修目的の明確化と、校園内研修の充実を図っている。

市教委主催の研修会においては、できるだけ対面集合での研修会を開催し、講義だけではなく、グループワークや振り返りの共有など、教職員が主体的に考え、参加し、協働できる内容・方法で取り組んだ。参加者からは「他校の実践が参考になった」「実践を交流する中で、自分自身の意欲が高まった」との声が多く聞かれた。

来年度も、現場のニーズを把握し、かつ負担とならないよう目的や内容を関連付け、教員にとって、学びの多い研修会を企画・運営していきたい。

# 第4次とよおか教育プラン(豊岡市教育振興基本計画)

## 2021年度実践計画検証総括シート

基本方針 2	子どもたちの学びを支える仕組みの確立
基本的方向 2	学校園の組織力の強化
	新しい時代に求められる資質・能力を育む教育課程の実現やいじめや不登校等に適切に対応するためには、教職員一人一人の力を組織的かつ機動的に生かしていく協働体制を確立することが重要である。 このため、①教職員一人一人の力を組織的かつ機動的に生かす協働体制の確立、②いじめや不登校等への対応等に取り組む。

### 〔指標の検証〕

指標名	2020現状値	2021目標値	2021指標の実現状況
■ いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う児童生徒の割合	小 98.3% 中 97.3%	小 100% 中 100%	小 97.5%(-2.5P) 中 95.8%(-4.2P)
□ 不登校児童生徒の割合	小[2019]0.40% 【2019全国出現率 0.84%】 中[2019]3.77% 【2019全国出現率 4.12%】	小 2020現状値以下 中 3.69%	小[2020]0.58%(-0.18P) 【2020全国出現率1.01%】 中[2020]4.07%(-0.38P) 【2020全国出現率4.30%】

■・・・全国学力・学習状況調査の児童生徒質問紙を用いて評価を行う指標。

□・・・各所管課の事業や独自調査などの結果により評価を行う指標。

#### ※ 全国学力・学習状況調査

国・公・私立学校の小学6年生と中学3年生を対象に実施する、国語、算数・数学、理科の教科に関する調査及び生活習慣や学習環境等に関する調査。(5月実施、8月結果公表)

※ 2021指標の実現状況のうち、( )内は対2021目標差を、○印は2020現状値よりも改善した指標を表す。

教育委員会 (担当課)検証 (取組の継続等)	S	目標達成・取組完了(目標達成、事業計画完了による取組終了)	検証委員検証 (担当課評価の 妥当性)	○	妥当
	A	継続実施(拡充・現行方法による継続実施)		△	疑義あり
	B	改善実施(取組の改善・見直しによる継続実施)		—	評価不能
	C	抜本的見直し(取組を継続する場合は抜本的な見直しが必要)			
	D	取組廃止(効果・必要性等から取組を廃止)			

〔施策と取組の自己検証〕

施策① 教職員一人一人の力を組織的かつ機動的に生かす協働体制の確立	中間外部検証		年度末検証	所管課
	担当課	検証委員会	教育委員会	
1 管理職研修の充実	A	〇〇〇	A	こども教育課
2 学校教育経営研修の充実	A	△〇〇	A	

(施策における取組の総括:担当課中間検証)  
豊岡市の教育施策の推進と充実には、各校園長の資質向上が欠かせない。そのことは、各校の校内研修の充実に直結すると同時に、教職員の育成にも大きな影響を及ぼしている。  
非認知能力向上事業をはじめ、市教委として重要な施策の推進について、今後も管理職研修等で研修を行っていく。

施策② いじめや不登校等への対応	中間外部検証		年度末検証	所管課
	担当課	検証委員会	教育委員会	
1 いじめの未然防止、早期発見・早期対応の充実	A	〇〇〇	A	こども教育課
2 小・中学校と関係機関との生徒指導に係る情報交換の推進	A	〇〇〇	A	
3 不登校対策の充実	A	〇〇〇	A	
4 相談支援事業の実施	A	〇〇〇	A	
5 「子どもの心を理解する強化月間」の充実	A	〇〇〇	A	
6 「アセス」を活用した生徒指導の充実	A	〇〇〇	A	

(施策における取組の総括:担当課中間検証)  
新型コロナウイルス感染症の影響に関する心のケアのためのアンケート調査(5月実施)では、ストレスを抱える児童生徒が一定程度存在していることが分かった。各学校では調査結果をもとに児童生徒の心と体の状態をしっかり把握しながら心のケアに努めている。今後も、全職員が一丸となり、相談しやすい学校環境づくりのさらなる推進に努めていく。  
また、各校や小中一貫各ブロックにおける取組の分析・検証・見直しを継続して進め、取組内容への反映と充実に努めていく。さらに、各校生徒指導担当者、不登校担当者等の研修会等で、各校の実践交流と事例に対する対応策等の協議を充実させ、その成果と課題、提案等を各校に発信・啓発する取組の充実を図っていく。

施策①-1

Webでの研修となったが、非認知能力について理解を深めることができた。

今後も、学校経営にあたっての今日的な課題をテーマにした研修をお願いしたい。

施策①-2

コロナ対策のために論文のみの研修となり残念であった。どうしても管理職試験対策になりがちであるが、学校のミドルリーダーが集うせっかくの機会である。管理職試験対策のみならず、討論や意見交流を含め、幅広いテーマで研修を実施していただきたい。

管理職試験受験希望者だけでなく、女性を含め、若手中堅教員が出席しやすいシステムの構築を期待する。

施策②-1

いじめアンケートの定期的な実施は定着している。いじめの積極的な認知に効果を上げている。各校で教育相談も効果的に行われている。

施策②-2

定期的に関係機関との情報交換会が実施されており、市全体の生徒指導の状況が把握できることはありがたい。SNSの使用により、問題行動が教師や保護者が気づかないうちに、広域化、重大化する懸念があり、ますますこの情報交換の必要性は高まっていくことが予想される。

施策②-3

不登校に係る引き継ぎ連携システムは大切である。不登校については豊岡市の大きな教育課題として捉えられており、ますます小中の連携は重要になってくる。

施策②-4

スクールカウンセラーとスクールソーシャルワーカーは「チーム学校」の重要な一員となっている。また、豊岡市子ども支援センターの存在も学校の大きな支えとなっている。

施策②-5

年間を通して、各教職員は子どもたちの心を理解するために工夫を重ねているところであるが、このように年に3回、強化月間を設けることで、より意識的に子どもに寄り添う姿勢を教職員が持つ機会となっている。

施策②-6

担任を中心に教職員は子どもの心を把握するために努力している。ただし、どうしても教職員の主観が入りすぎる傾向があり、客観的に学校満足度等を分析することができるアセスのような調査は必要である。

豊岡市の教育施策を各校に深く浸透させるため、まずは管理職が学ぶ機会とし開催しました。今後も引き続き、市の教育施策、今日的課題をテーマに開催します。

女性を含め、学校運営に積極的に参画できるミドルリーダーの育成をめざします。研修ではグループワーク等、課題解決に能動的に関わり、協働しながら意見を交わすなど、他者から学び、気づきと意欲を生み出す研修になるよう努めます。

これからも各取組を通して、いじめの早期発見・早期対応に努めるとともに、子どもと教員の信頼関係を築き、子どもの心の安定に努めます。

引き続き、学校、関係機関との情報交換を密にし、生徒指導の充実を図ります。SNS関係についても、必要に応じて子どもへの講話や保護者への啓発等を進めていきます。

小中連絡シートの活用や中学校区ネットワーク会議等により、小中学校の情報共有と綿密な引継ぎに努めます。

スクールカウンセラーとスクールソーシャルワーカーの勤務日を合わせるなど、連携をより強化し、効果的な取組ができるよう進めていきます。

子どもたちの欠席が多くなる月を強化月間とし、教職員が意識してより丁寧な寄り添いに努めており、子どもたちが抱える不安の緩和につながっています。これからもアンケートや教育相談等、取組の充実を図ります。

各学校で年2回以上行っているアセスをはじめ、心のケアアンケート調査等を継続し、あらゆる角度から子どもの心を把握し、安心した学校生活を送れるよう努めます。



〔基本的方向における総括:教育委員会検証〕

子どもたちに新しい時代に求められる資質・能力を育んだり、いじめや不登校等に適切に対応したりするため、教職員一人一人の力を育成し、組織としての力を伸ばしていくことが重要である。

今年度の教育フォーラムは、管理職研修と園小中合同研修会をあわせて開催し、非認知能力向上について共通理解を図った。参加者からは「授業の中で学び合いを意識し、非認知能力の視点を授業に取り入れていきたい」など肯定的な感想が数多く寄せられた。

「子どもの中に価値を見つける」「子どもの言動を意味づける」ことは、「子どもの事実」に学び、子どもに寄り添う教育に通じるものであり、今後一層、全ての教育活動で非認知能力の向上に向けた取組を進め、市教職員全体の資質向上を図っていきたい。

# 第4次とよおか教育プラン(豊岡市教育振興基本計画)

## 2021年度実践計画検証総括シート

基本方針 2	子どもたちの学びを支える仕組みの確立
基本的方向 3	安全・安心な教育環境の整備・充実
	子どもたちが安心して学校園生活を送るためには、安全で質の高い教育環境の整備を図ることが重要である。 このため、①学校園及び給食センターの安全対策やICT環境等の教育環境の整備・充実、②様々な困難や課題を抱える子どもたちに対する就学支援等に取り組む。

### 【指標の検証】

指標名	2020現状値	2021目標値	2021指標の実現状況
<input type="checkbox"/> 小学校屋内運動場・武道場非構造部材等落下防止対策の実施率	51.7% 【15校】	87.0% 【20校/23校】	87.0%(±0P)○ 【20校/23校】
<input type="checkbox"/> 学校給食において地場産物(市内産の野菜)を使用する割合	31.1%	36.3%	30.8%(-5.5P)

■・・・全国学力・学習状況調査の児童生徒質問紙を用いて評価を行う指標。

□・・・各所管課の事業や独自調査などの結果により評価を行う指標。

※ 全国学力・学習状況調査

国・公・私立学校の小学6年生と中学3年生を対象に実施する、国語、算数・数学、理科の教科に関する調査及び生活習慣や学習環境等に関する調査。(5月実施、8月結果公表)

※ 2021指標の実現状況のうち、( )内は対2021目標差を、○印は2020現状値よりも改善した指標を表す。

教育委員会 (担当課)検証 (取組の継続等)	S 目標達成・取組完了 (目標達成、事業計画完了による取組終了)	検証委員検証 (担当課評価の 妥当性)	○ 妥当
	A 継続実施 (拡充・現行方法による継続実施)		△ 疑義あり
	B 改善実施 (取組の改善・見直しによる継続実施)		— 評価不能
	C 抜本的見直し (取組を継続する場合は抜本的な見直しが必要)		
D 取組廃止 (効果・必要性等から取組を廃止)			

〔施策と取組の自己検証〕

施策①	学校園及び給食センターの安全対策やICT環境等の教育環境の整備・充実	中間外部検証		年度末検証	所管課
		担当課	検証委員会	教育委員会	
1	学校園施設等の定期的な安全点検及び整備	A	〇〇〇	A	教育総務課
2	非構造部材等落下防止対策の推進	A	〇〇〇	A	
3	ICT環境の整備	B	〇〇〇	B	
4	地産地消の推進と安全・安心な学校給食の提供	A	〇〇〇	A	
5	通学(園)路の安全点検及び関係機関・保護者・地域との連携強化	A	〇〇〇	A	こども教育課
6	通学(園)手段の確保	A	〇〇〇	A	
7	安全・安心な学校生活に向けた新型コロナウイルス感染症への対策	A	〇〇〇	A	

(施策における取組の総括:担当課中間検証)

施設の不具合に対して、緊急度の高いものから順次対処してきた。それ以外のものについては、経過年数、劣化状況等を判断し、計画的な改修に努めてきた。ICT環境整備については、今年度から児童生徒1人1台端末の本格運用が開始されたところであり、学校からの要望を踏まえ、環境改善の方策を検討したい。

施策②	様々な困難や課題を抱える子どもたちに対する就学支援	中間外部検証		年度末検証	所管課
		担当課	検証委員会	教育委員会	
1	就学援助費の支給	A	〇〇〇	A	こども教育課
2	特別支援教育就学奨励費の支給	A	〇〇〇	A	

(施策における取組の総括:担当課中間検証)

就学援助については、新入学児童生徒学用品費を入学前に支給することで、保護者の経済的負担の軽減につながっていると考える。また、年度当初には、新小学1年生を対象に新型コロナウイルス感染症対策として就学援助費受給対象者の拡充を行い、家計が急変し、就学援助費を受給している方と同じ水準となっている方に援助を行った。(その他の学年については、2020年度に行った。)

今後も経済的に援助を必要とする児童生徒の保護者の負担を軽減するため、継続した就学支援が必要である。

施策①-1, 2

非構造部材落下対策については着実に進められている。施設・設備の管理においては、担当課において担当者が直接整備を行い経費節減に努める姿も見られる。

施設の老朽化と少子化が進む中、市の予算との関係により実施が困難な事もあると思うが、今後も点検と整備に努めて安全な教育環境の実現に努めていただきたい。

施策①-1

園児・児童・生徒の安全な環境の保持のために、計画的な修繕等に努めてほしい。

施策①-3

配備されたICT機器を児童・生徒の学びに確実につなげていくために、現場の声を聞きながら必要な環境の整備に力を入れてほしい。また、児童・生徒が端末を持ち帰るにあたっては、情報モラルへの十分な対策が望まれる。

ICT環境が最新の状況で整備され、児童・生徒が十分に活用できることを期待する。

施策①-4

困難もある中で地場産物の使用率を着実に上げてきている。民間委託後も調理業務の安全性が保てるよう、委託業者との確実な連携と管理・監督に努めてほしい。

施策①-5

関係各機関と連携をとって、今後も安全な通学環境の確保に努めてほしい。

登下校の見守りが多くの地域の住民によって行われ、駐在所の警察官も毎朝、交通安全の活動に務めていただいている。危険箇所への対応と地域の協力を得て見守り活動の継続を期待する。

施策①-6

学校再編に伴う通学距離の延伸、少子化による少人数での登校等、今後の課題に対し安全な通学のための適切な対策を検討・実施してほしい。

学校の統合に伴う遠距離通学者の負担の軽減につながる工夫を望む。

施策①-7

市教委と学校園とが連携を取って的確に対応した事で、児童・生徒、保護者、教職員がそれぞれの立場ですべき事を理解・実践し、安心できる環境をつくる事ができたのではないかと。今後も連携を維持しながら安全で安心できる環境づくりに努めてほしい。

施策②

支給時期を早めたり、コロナの影響を考慮したり等、実態に即した経済的困難への支援に努力されている。コロナの影響が長引く事が予想される中、今後も家庭の経済格差が児童・生徒の学びを左右しないように努めていただきたい。

施策②-1

今後もコロナ禍により、就学援助が必要な児童・生徒の増加が予想されるので、保護者の経済状況に応じて早めの対応をしてほしい。

日ごろから学校関係者や業者による定期点検の実施により、不具合等を早期に発見し安全で快適な環境の実現に努めます。今後も安全で質の高い教育環境の整備を図っていきます。

計画的な修繕等に努め、突発的に生じた不具合に対して、緊急度の高いものから順次対応していきます。

今後、端末の活用に必要な環境整備の方策を検討・試行していきます。また、情報モラルについても関係課と連携し、育成を図ります。

給食の質を維持し、地場産物の使用率向上にも寄与できるよう給食費の見直しを行います。委託業者との連絡を密に行い、安全安心な調理業務遂行の確保に努めます。

今後も、警察や道路管理者と連携を図りながら、安全な通学環境の確保に努めます。

また、保護者や地域のボランティアとの連携を図りながら通学・通園環境を整えます。

学校や保護者等と連携を密にし、課題の解決に向け取り組んでいきます。遠距離通学者については、一定の基準のもとで、バス通学の導入など負担軽減に努めます。

子どもたちが安心して学校園生活を送るために、今後も学校園と連携を図り、安全で質の高い教育環境の整備に努めていきます。

今後も広報等を十分に行い、保護者の負担軽減のため継続実施していきます。

今後も広報等を十分に行い、保護者の負担軽減のため継続実施していきます。

〔基本的方向における総括:教育委員会検証〕

昨年度に引き続き、非構造部材等落下防止対策において、計画どおり整備を行った。2022年度までに整備対象すべての小学校の整備完了をめざす。ICT環境においては、児童生徒1人1台端末を整備した。今後は端末活用に必要なネットワークや人的支援等の環境整備の方策を検討・試行していく。

# 第4次とよおか教育プラン(豊岡市教育振興基本計画)

## 2021年度実践計画検証総括シート

基本方針 2	子どもたちの学びを支える仕組みの確立
基本的方向 4	家庭と地域による学校と連携した教育の推進
	<p>家庭は、すべての教育の出発点であり、家族の触れ合いの時間を確保し、基本的なしつけを通して、人間関係の基礎を形成し道徳性の芽生えを培うことや、食生活や睡眠を含めた規則正しい生活習慣を身に付けさせることが重要である。加えて、子どもたちが地域の中で、体験的な学びと交流によって豊かな成長がかなえられるよう、地域ぐるみで子どもを育てる体制づくりや学校からの積極的な情報発信を踏まえた学校園・家庭・地域との緊密な連携が重要である。</p> <p>このため、①家庭における子どもが伸びる習慣づくり、②親としての学びへの支援、③関係機関の連携による子育て支援、④地域全体で子どもを育てる環境づくり等に取り組む。</p>

### [指標の検証]

指標名	2020現状値	2021目標値	2021指標の実現状況
<input type="checkbox"/> 子育て講座の実施回数	20回 [2021.1.1現在]	30回	27回(-3回)○ [2022.3.31現在]
<input checked="" type="checkbox"/> 今住んでいる地域の行事に参加している児童生徒の割合	小 90.1% 中 73.0%	小 92.9% 中 77.1%	小 86.1%(-6.8P) 中 75.2%(-1.9P)○
<input type="checkbox"/> PTCAあいさつ強化月間の取組参加者数	5月 3,413人	2020現状値以上	5月 9,428人(+6,015人)○
<input type="checkbox"/> 保育園・認定こども園待機児童数	8人 [2020.10.1現在]	0人	7人(-7人)○ [2021.10.1現在]
<input type="checkbox"/> 放課後児童クラブ待機児童数	0人 [2021.1.1現在]	0人	2人(-2人) [2021.10.1現在]

■・・・全国学力・学習状況調査の児童生徒質問紙を用いて評価を行う指標。

□・・・各所管課の事業や独自調査などの結果により評価を行う指標。

※ 全国学力・学習状況調査

国・公・私立学校の小学6年生と中学3年生を対象に実施する、国語、算数・数学、理科の教科に関する調査及び生活習慣や学習環境等に関する調査。(5月実施、8月結果公表)

※ 2021指標の実現状況のうち、( )内は対2021目標差を、○印は2020現状値よりも改善した指標を表す。

教育委員会 (担当課)検証 (取組の継続等)	S 目標達成・取組完了 (目標達成、事業計画完了による取組終了)	検証委員検証 (担当課評価 の妥当性)	○ 妥当
	A 継続実施 (拡充・現行方法による継続実施)		△ 疑義あり
	B 改善実施 (取組の改善・見直しによる継続実施)		— 評価不能
	C 抜本的見直し (取組を継続する場合は抜本的な見直しが必要)		
	D 取組廃止 (効果・必要性等から取組を廃止)		

【施策と取組の自己検証】

施策① 家庭における子どもが伸びる習慣づくり	中間外部検証		年度末検証	所管課
	担当課	検証委員会	教育委員会	
1 「すくすくメッセージ」等を活用した「規則正しい生活リズム」の定着	A	〇〇〇	A	こども育成課
2 「運動遊びパンフレット」等による家庭や地域での運動遊び・外遊びの促進	A	〇〇〇	A	
3 家庭での基本的な生活習慣と学習習慣の確立	A	〇〇〇	A	こども教育課
4 ブックスタートの推進	A	〇〇〇	A	生涯学習課

(施策における取組の総括:担当課中間検証)

「すくすくメッセージ」等を配布し、乳幼児期における生活リズムの定着の啓発を図っている。また「非認知能力」に焦点をあてた「はばたきメッセージ」等を活用し、家庭での基本的な生活習慣の定着を図っている。今後も引き続き、これらの取り組みを進める。

施策② 親としての学びへの支援	中間外部検証		年度末検証	所管課
	担当課	検証委員会	教育委員会	
1 PTA活動の充実	A	〇〇〇	A	こども教育課
2 子育て家庭を対象とした子育て講座の実施	A	〇〇〇	A	こども育成課
3 親子が交流できる機会の支援	A	〇〇〇	A	

(施策における取組の総括:担当課中間検証)

豊岡市PTA連合会において保護者が自ら学び、情報を共有するための機会を今後も継続して支援する。また、事業の見直し等を行うなど、さらなるPTA活動の充実を図っていく。

施策③ 関係機関の連携による子育て支援	中間外部検証		年度末検証	所管課
	担当課	検証委員会	教育委員会	
1 子育てに関する相談の充実	A	〇〇〇	A	こども育成課
2 学校園と家庭児童相談室・こども家庭センターなどの関係機関との連携	A	〇〇〇	A	

(施策における取組の総括:担当課中間検証)

市こども支援センターが調整機関となり、学校園、市健康増進課等の関係機関と情報共有し、特にリスクが高く、支援が必要な家庭について連携を図りながら、役割分担し、適切な助言・指導を行っている。家庭環境の多様化に伴うさまざまな子どもに関する相談に適切に対応するため、相談対応職員のアセスメント能力の向上を図るとともに、児童虐待など子どもの安全確保を図る必要がある場合は、県こども家庭センター、警察署、病院と迅速に情報共有し対応する。

施策④ 地域全体で子どもを育てる環境づくり	中間外部検証		年度末検証	所管課
	担当課	検証委員会	教育委員会	
1 安全ボランティアによる見守り活動の継続及び活動支援	A	〇〇〇	A	こども教育課
2 学校・家庭・地域の連携強化	A	〇〇〇	A	
3 「地域とともにある学校」づくりの推進	A	〇〇〇	A	
4 仕事と子育ての両立支援	A	〇〇〇	A	こども育成課
5 子どもと心でつながる市民運動の推進	A	〇〇〇	A	生涯学習課
6 図書ボランティア活動の促進	A	〇〇〇	A	

(施策における取組の総括:担当課中間検証)

安全ボランティアの人材確保、高齢化など見守り活動の課題が顕著になりつつある。地域の実態に応じて、「子どもを見守り、育てる環境づくり」を支援していかなければならない。コミュニティ・スクール(学校運営協議会)モデル校での取組等を検証しながら、地域と協働し課題解決を図っていく。

施策①-1

「なかよし広場」は、隔月ではあるが月毎に保健師、栄養士、歯科衛生士がセンターに来て、ミニ講話や個別相談を行っている。ワクチン接種のため、今年度の前期は保健師不在であったが、9月から従来の形で開催できた。保護者にとっても専門家の話を聞くよい機会になっている。アンケートからも「毎回、子育てについていろいろ話が聞けてありがたい。」というような感想が多くみられ、今後も継続を要望する。

施策①-2

この取り組みについては、子育てセンターでは運動指導員による「親子運動遊び」を実施している。父親が参加しやすい事業であり、土曜日に開催すると数名であるが必ず父親の参加がある。一緒にいる母親がとても嬉しそうなのが印象的である。家族で楽しめる事業として今後も継続を要望する。

施策②-2

この取り組みについては、ボランティアとセンター職員で子どもを保育している。子どもと離れて、自分ひとりの時間に子育てのことを冷静に考えるということは、自分の子育てを見直す機会になり大切なことだと思う。保護者同士、共感しあえる人と話すことで「自分ひとりじゃない」と気持ちが楽になっているようだ。リピーターが多く、子育て仲間というつながりを強めていると感じる。今後も継続を要望する。

施策②-3

子どもの少ない地域の「おでかけ広場」には、認定こども園の園児との交流も兼ねて、参加してもらっている。その地域にどんな子どもがいるか、認定こども園、子育てセンター、地域コミュニティーセンターと連携できるのは有難い。地域によっては、祖父母の参加もある。

「そとあそび広場」は、親子で遊びに行く誰もいない公園が、センターで行くと複数になるため遊びに広がりができ、親子だけで過ごすより長時間遊べると好評である。戸外という開放感の中で、保護者同士も話しやすい雰囲気がある。また、コロナ禍で外出自粛中であっても、そとあそび広場なら…という気持ちがあるのか。今後も継続を要望する。

施策④-3

この取り組みについては、2020年度に先行実施した弘道小、竹野中のモデル校の取り組みを教えていただきたい。

専門職からの話を聞く機会の提供は、重要であると考えており、今後も健康増進課と調整しながら事業継続できるよう努めます。

運動能力の向上をめざすものではなく「親子でスキンシップをとりながら、楽しく体を動かして遊ぶ」ことの重要性を、継続的に普及啓発し、丁寧に事業展開していきたいと考えています。

子育て中の保護者は多くの不安を抱えているため、子育ての参考となる知識・情報や子育てを考える機会を提供し、子育ての不安解消を図れるよう努めます。

「おでかけ広場」は保護者が気軽に集い、交流や情報交換できる場を提供し、引きこもりがちな親子が外に出るきっかけとなるよう継続して実施します。

「そとあそび広場」は子育て中の保護者が交流や情報交換する機会を提供し、親子で戸外での遊びを共有し、興味・関心を広げられるよう継続して実施します。

地域の中で子どもたちをどのように育てていくか、地域と子どもがいかにつながっていきけるかを念頭に置きながら、取組を実践しています。

弘道小：地域住民とともに自然環境の調査や町探検等の活動

竹野中：「地域での起業」をテーマに地域住民の講師による学習

〔基本的方向における総括：年度末教育委員会検証〕

子どもの安全・安心な学校生活に向けて、学校・家庭・地域がそれぞれの役割や責任、強みを自覚し、連携・協働しながら課題解決を図っていくことが重要である。

コロナ禍にあり、三者それぞれの取組の実施、連携がしにくいことも事実である。今後は、コロナ禍でも実施できる方法を模索し、あいさつ運動、見守り活動、地域での学びや交流など、具体的な活動を通して一層連携を密にしていきたい。

また、さらに地域学校協働活動を推進するため、PTA、学校評議員会、学校運営協議会(コミュニティスクール)などの組織を活用し、地域の実態に応じた課題の共有化を図っていく。



## IV 外部有識者の総評

## 1 2021年度教育委員会活動について

### (1) 総括意見

教育委員会の点検・評価は効果的な教育行政を推進するため、また市民に対する説明責任を果たすために行われる。このため、この点検・評価にもとづいて今後の教育行政施策の改善や見直し、教育環境の整備や充実に努めることが求められる。

2021年度の教育委員会活動について、教育委員会会議の定例会が12回、臨時会が4回の計16回開催され、35件の議案審議および39件の報告・協議がなされた。審議案件と報告案件の一覧とを概観したところ、とくに問題は見受けられない。

教育委員会会議以外の活動状況について、市長と教育委員会とで構成する総合教育会議が計2回開催されている。また、教育施策の内容について市民から理解を得ること、および市民の声を教育行政に反映することを目的とした教育懇談会を実施している。2021年度は「豊岡市立小中学校適正規模・適正配置審議会」が2021年2月に答申した内容について、7月1日から同12日にかけて、市内6会場において説明会（参加者計231名）を開催した。また「豊岡市における幼児教育・保育及び放課後児童のあり方計画」に関する説明会を7月10日から同21日までの間に再編・統合を計画している6地区で実施した（参加者計123名）。そして「豊岡市立小中学校適正規模・適正配置計画（案）」に関する質疑応答・意見交換のための説明会を11月25日から12月6日までに、市内6会場で行い（参加者計243名）、その結果を踏まえて12月に計画を策定した。

豊岡市では2020年2月に「第4次とよおか教育プラン」を策定し、それにもとづいた「2021年度実践計画」を2021年3月に策定している。今後は「第4次とよおか教育プラン」にもとづく教育施策を年度ごとの実践計画において、着実に進めると同時に、年度ごとの点検・評価結果にもとづく成果検証によって、柔軟かつ適切な改善を繰り返すことによって、より効果的な教育施策を推進することが求められる。

### (2) 豊岡市の教育に求められるもの

豊岡市では、非認知能力（やり抜く力・自制心・協働性）の育成を掲げている。これは、今次改訂の学習指導要領で強調された育成を目指す資質・能力のうち「学びに向かう力・人間性等」と通底するものであり、これからの時代を生きる子どもたちに欠かせない力である。様々な活動を通して育成されることを強く願う。

このような力を育成するためには、義務教育9か年で子どもを育てる、という考え方が求められる。豊岡市は県下においても、早期から小中一貫教育に取り組んできた。小中一貫教育は小中学校教育それぞれの強みを相乗効果として高めるもので、義務教育の質向上に益する取り組みである。したがって、小中一貫教育についても、豊岡市にとっての最適な方策を導出すべく、成果検証を進めて欲しい。

くわえて、子どもの学びや育ちは学校だけで達成されるものではない。家庭や地域との連携が今後ますます重要となる。地域とともにある学校とするための「コミュニティスクール」がモデル校である弘道小学校と竹野中学校の2校で開始され、2021年度も継続されている。今次改訂の学習指導要領で謳われる「社会に開かれた教育課程」の実現に「コミュニティスクール」は大きく資する取り組みである。豊岡らしい地域とともにある学校づくりのためにも、これらモデル校の成果検証を進め、他校での取組の参考となるように、教育委員会による継続的な取組の検証と支援が望まれる。

## 2 2021年度教育施策の取組について

### (1) 成果があった取組について

「あたまの力」の育成について、2021指標の実現状況に鑑みれば、目標値には到達がかなわなかったものの、2020現状値と比較して改善した指標もあることから、取組が効果的であったと言えるだろう。とくに「国語、算数、数学の勉強が好きだと思っている児童生徒の割合」については、目標値には及ばなかったものの、2020年度と比較して改善されている。「勉強が好き」というのは学びの源泉であるので、児童生徒がもっと学びたい、と思えるような授業づくりにこれからも取り組んで欲しい。

「こころの力」の育成に関しては、2021指標の実現状況において、とりわけ「自分にはよいところがあると思う児童生徒の割合」「ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがあると思う児童生徒の割合」が、前年度と比較して良好な状況にある。これらは豊岡市が育成を目指す非認知能力の一つであり、また学習を進めるうえで、基盤となる力でもある。今後も継続されることに期待する。

「からだの力」の育成は、2021指標の実現状況を見るに、「朝食を毎日食べる児童生徒の割合」は2021目標値については達成までの道半ばであるが、2020現状値から改善されている。朝食を食べることは、学習をはじめ学校での活動の原動力となると考えられる。これは学校だけでできるものではないので、家庭との連携・協働を図りながら、今後も進めて欲しい。

教職員の資質向上について、「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思う児童生徒の割合」が2020現状値を超えるだけでなく、2021目標値をも達成していた。彼らにとって保護者の次に身近な大人である教員に良いところを認められることは、彼らの自信の形成につながると考えられる。今後も継続して、児童生徒の良いところを評価して欲しい。

### (2) 改善や見直しが必要な取組について

改善や見直しについては昨年度からの継続となる。まず「学校における働き方改革の推進」について、教育委員会による自己評価が「B」となっている。外部検証委員からも「『働き方改革』の推進に生かすことができるよう市教委と学校現場が連携し取り組んでほしい」ともあることから、教職員の働き方改革の推進に努められること

を望みたい。また基本方針2 基本的方向3の施策①「ICT環境の整備」について、教育委員会による自己評価が「B」となっている。「ICT環境の整備」について、これからの教育において、オンラインによる教育は、学習支援の役割だけではなく、子どもたちの学習保証のためにも、今後ますます重きをなすことになる。対面の方が良い、オンラインの方が良いという二項対立的なものではなく、お互いの長所を補完し合って、教育の質を高めることにつながるものである。このため、今後も継続して学校における機器等の整備、それを活用する教員のスキルの向上など、一層のICT環境の整備を教育委員会には求めたい。

### (3) 今後の教育施策の取組について

2021年度もまた「コロナ禍」への対応の一年であり、これまでの教育活動の継続を困難にした一年でもあった。一方で「コロナ禍」における学校教育をいかに進めるか、という新しい試みを模索する一年でもあったと考える。

また2021年度は、中学校において学習指導要領が全面実施となった年でもあり、義務教育段階においては、すべて新しい学習指導要領にもとづく教育活動が行われることとなった。今次改訂の学習指導要領は、「社会に開かれた教育課程」を基盤として、「カリキュラム・マネジメント」と「主体的・対話的で深い学び」という教育内容と教育方法の両輪の改革でもって、子どもたちの生きる力の育成を目指す。今後はこうした学習指導要領の理念を踏まえ、そのうえで、豊岡市の教育が大切にしてきたこと、これから大切にすることの質を高めるべく、施策を展開することが望まれる。



2022年度

**教育委員会の点検・評価報告書**

(2021年度事業分)

発行 2022年6月

編集 豊岡市教育委員会 教育総務課

〒668-8666

兵庫県豊岡市中央町2番4号

豊岡市役所本庁舎6階

TEL 0796-23-1117

FAX 0796-24-4669